

諏訪市埋蔵文化財調査報告第35集

ジャコッパラ VIII

—平成8年度長野県黒耀石原産地遺跡分布調査概報—

(諏訪市ジャコッパラ遺跡群遺跡分布予備調査5)

1997. 3

諏訪市教育委員会

ジャコツバラ VIII

——平成8年度長野県黒耀石原産地遺跡分布調査概報——

(諏訪市ジャコツバラ遺跡群遺跡分布予備調査5)

1997. 3

諏訪市教育委員会

JAKOPPARA vol. VIII

AN ARCHAEOLOGICAL SURVEY
ON JAKOPPARA SITES AT KIRIGAMINE,
NAGANO-PREFECTURE, JAPAN

1997. 3

THE BOARD OF EDUCATION
OF SUWA CITY



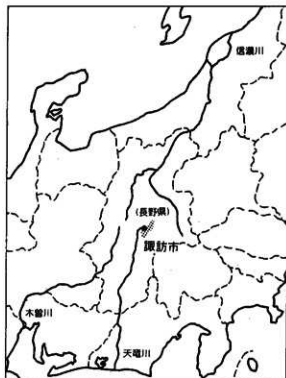
KRB828グリッドの遺物出土状況



KRB828グリッド出土遺物

例 言

1. 本書は、長野県諏訪市霧ヶ峰南麓地域の平成8年度遺跡分布予備調査概要報告書である。
本分布予備調査は平成8年度国庫・県費補助事業市内遺跡発掘調査事業の一部として行われたものである。また、長野県黒石原産地遺跡分布調査（諏訪市）を兼ねている。
2. 本調査は、諏訪市教育委員会が調査主体者となり、諏訪市教委の編成するジャコッパラ遺跡群調査団が調査を担当した。
3. 現場における発掘調査は、平成8年9月10日から11月28日まで実施した。報告書作成作業は平成8年11月から平成9年3月まで、諏訪市社会教育センターにおいて行った。
4. 本文中の水糸レベルは標高の絶対値で示した。
5. 現場における記録と整理作業の分担は次の通りである。
遺構等実測……青木正洋・田中 総・五味裕史・小松とよみ・原 敏江・矢崎つな子・小口淑子・藤森敏幸
遺物水洗・注記作業……今野真由美・堀内多介子・宮坂鈴子・藤森
遺物実測及び遺構遺物トレース・図面写真整理……今野・堀内・宮坂・藤森・中島 透・青木・田中・五味
6. 執筆分担はⅠ 事務局、Ⅱ・Ⅲ 青木・田中・五味(遺物 田中)、Ⅳ 五味である。
7. 調査の記録は、諏訪市教育委員会で保管している。
8. 発掘調査及び報告書作成に際し、調査・整理参加者の他に下記の方々はじめ多くの方々に御指導・御教示を得た。記して感謝申し上げます。
戸沢充則・安藤政雄・酒井潤一・堤隆・宮坂清・高見俊樹
上桑原牧野農業協同組合・上桑原共有地組合・長野県教育委員会文化財保護課



ジャコッバラⅧ

目 次

カラーグラビア

目 次

I 調査に至る経過

1. 霧ヶ峰遺跡分布予備調査の経過	1
2. 過去における調査	1
3. 平成8年度調査の概要	2
4. 補助事業決定の経過(抄)	3
5. 調査組織	3
6. 調査日誌(抄)	4

II 位置と環境

1. ジャコッバラ遺跡群を取りまく環境	5
2. ジャコッバラ遺跡群と周辺遺跡群の概要	5

III 平成8年度遺跡分布予備調査の概要と成果

1. 平成8年度調査区の概要と基本土層について	11
2. A地区	13
3. B地区	18
4. C地区	34

IV 本年度調査のまとめ

1. 検出された遺構・遺物及び遺跡立地について	42
-------------------------------	----

写真図版

I 調査に至る経過

1. 霧ヶ峰遺跡分布予備調査の経過

霧ヶ峰高原周辺からは、火山性ガラスである黒曜石が多く産出される。和田峠周辺等の黒曜石露頭などから採取された黒曜石は、旧石器時代から縄文時代にかけて、広く関東・東海地方へ石器材料として運びだされ、利用されたことがわかっている。また、黒曜石原産地の地元である諏訪地方各地でも、黒曜石製の石器類を多量に出土する遺跡が多く発見されており、これらの遺跡は、山麓部から諏訪湖盆にかけていくつかの遺跡群を構成している。しかし、これまで黒曜石露頭付近及びこれらを取りまく山麓部については、現況が山林・草原である事から、遺跡分布を把握することが困難であった。このような状況をふまえ、長野県教育委員会及び関係各市町村により「長野県黒曜石原産地遺跡分布調査」が計画され、各市町村による分布調査が進められる事となった。

諏訪市では同時期に霧ヶ峰山麓一帯を覆うような形での大規模な開発計画がもたれられており、遺跡の保護措置を協議するためにも、山麓部における遺跡の分布状況をなるべくすみやかに把握する必要があったため、文化庁及び長野県教育委員会の指導のもと、平成3年度から調査を開始した。分布予備調査では、対象範囲面積が広大であるため、まず遺跡の有無及び各地点の土層堆積状況の確認を行うことにより遺跡分布と地形との関係を把握することが目的とされ、この結果をもとに、遺跡の存在が予想される地点の抽出を行って埋蔵文化財の保護及び活用に関与することを目指している。

調査予定区域内は、ほとんどが草原か林地であり、表面採集による遺跡分布の確認は不可能であったため、試掘を伴う調査を行うこととした。試掘坑は、地図及び現地踏査による地形読取から地点を選定し、掘り下げを行った。

2. 過去における調査

ジャコッパラ遺跡群に関するこれまでの調査の概要については、平成4～7年度の分布予備調査概報にも略述されている。過去の表面採集による分布調査では、蛇行原遺跡及び蛇行原上遺跡（現ジャコッパラNo1遺跡）と、霧ヶ峰農場遺跡が周知されており、また、北側に隣接する、国の天然記念物である踊場湿原周辺には池のくろみA～D遺跡が知られていた。

昭和62年に蛇行原遺跡及び蛇行原上遺跡の範囲内において創価学会研修道場建設に先立つ緊急発掘調査が行われ、新たに陥し穴状遺構14基が検出された。また、旧石器が発見されたことにより、この遺跡の営まれた時代幅が大きく拡がることが明らかになった。この調査の結果、遺構・遺物の出土状況や周辺地形を勘案した上で、従来「蛇行原遺跡」及び「蛇行原上遺跡」として登録されていた範囲を含む部分が、「ジャコッパラ遺跡」として統一されることとなった。

平成3年度からは遺跡分布予備調査が開始された。平成7年度までの調査で、述べ約380ヶ所の試掘坑を設定し、うち約70ヶ所において遺構もしくは遺物が確認され、新たに15ヶ所の遺跡が発見された。これら

は相互に有機的な関連を有し、全体的に一つの遺跡群として捉えられることが予想されたため、「ジャコッパバラ遺跡群」として位置付けを行い、「ジャコッパバラ遺跡」を「ジャコッパバラNa1遺跡」としたほか、その後新発見された各遺跡についても「ジャコッパバラNa〇遺跡」という名称を用いることにした。平成3年度～7年度の分布予備調査では、ジャコッパバラNa2～Na17遺跡が発見されている。

これらの遺跡は旧石器時代から縄文時代（一部は弥生時代）にわたる遺跡であり、ジャコッパバラNa8遺跡・Na12遺跡のようなかなり規模の大きい旧石器時代の石器製作址や、ジャコッパバラNa6遺跡のように縄文時代の陥し穴群が構築された狩猟場のほか、一時的なキャンプ地と考えられる比較的小規模な遺跡など、様々な性格の遺跡がこの付近に分布していることがわかった。また、旧石器時代に関して、これまで諏訪地方では困難であったローム層中の複数の文化層を層位的に区分することが出来る可能性が高くなってきた。ジャコッパバラNa8遺跡などでは、同一地点内での出土層位の異なる複数の石器群の存在が明らかになっている。過去5年間の調査の結果、遺跡立地パターンや時代・性格別の遺跡分布のあり方が徐々に明らかになってきており、新たな試掘坑の設定（遺跡の存在が予想される地形の読み取り）等に当たってもこれらの調査結果がフィードバックされるようになったことも一つの成果として挙げられよう。

3. 平成8年度調査の概要

調査方法は、踏査と地形図からの地形読み取りによって試掘坑の設定地点を決定し、各試掘坑とも2m×2mを基本に、状況に応じて1m×3m等の試掘坑も設定した。掘り下げはすべて手掘りで行い、遺構及び土層堆積状況確認のため、最低でもローム上面から数10cmの深さまで掘り下げることを原則としたが、遺物等の検出状況や、地山の状況に合わせて随時変更した。

各試掘坑では土層堆積状況や遺物検出状況等の諸記録を行い、最後にタキオメーターによって位置を地形図上におとした。また、数ヶ所については分析資料取得のため土壌サンプリングを行った。

なお、試掘グリッドの名称は平成7年度から以下のように表記することとした。例えば「KR B 8 0 1」のような場合、頭のKRは「霧ヶ峰」の略、次のBは地区名（この場合はB地区ということ）、「8」は平成8年度を表わしたものであり、最後の2桁が設定した順番（年度ごと01から付す）を示す。最終的には平成6年度以前の調査グリッドとあわせ、統一した番号をつけ直す予定である。

本年度の調査は、A・B・Cの3地区にわたり行われた。A・B地区の本年度調査区域は今回の分布調査範囲の西端にあたり、A地区の尾根筋から北西側に直線距離で約800mの離れた場所には縄文時代早期の遺跡として著名な細久保遺跡が位置する。B地区調査区域は、平成3年の調査で発見されたジャコッパバラNa4及びNa5遺跡の位置する尾根から湿原を隔てた対岸の尾根筋にあたる。C地区調査区域はおおむねジャコッパバラNa1遺跡範囲の西半分であり、市道よりも沢筋側を調査した。

A地区では11ヶ所試掘坑を設定した。調査開始前の踏査では調査区北西側の防火帯付近で黒曜石剥片が1点表面採集されており、何らかの遺構が存在することが予想されたが、尾根筋上は区域北端部を除き堆積土層の残存状況が悪く、ローム土の堆積がほとんど認められない地点もあった。試掘坑からは遺構・遺物共に検出されていないが、調査区東側の谷筋などには陥し穴状遺構の存在も予想されるため、今後も注意が必要である。

B地区では36ヶ所の試掘坑を設定し、うち10ヶ所で遺物の出土を見た。旧石器時代ではKR B 828グリッ

ドのいわゆるソフトローム中を主として礫群を伴う石器類が検出されたほか、縄文時代については、KR B847グリッドにおいて10数点の押型土器片と共にハンマーストーンと思われる小礫・未成品と判断される黒曜石製石鏃・黒曜石チップ等が検出されるなど、南北に細長く1kmほどのびる独立丘状の尾根筋に点々と遺跡の存在が確認された。

C地区の本年度調査区域はジャコッパラNa1遺跡の範囲内にあたり、過去に尖頭器ほか旧石器時代に属すると考えられる石器類が表面採集された地点を含む。16ヶ所の試掘坑中6ヶ所で遺物が検出された。ローム土の露出した部分では黒曜石剥片等が数点表面採集されたが、試掘グリッドにおいては前述の石器群を含むような旧石器時代の遺構については明確に捉えることができなかった。ただし、KR C807グリッドでは尾根上方からの流れ込みとも考えられる状況でローム中からナイフ形石器が出土している。縄文時代についてはKR C816グリッドで、焼土を伴う小竈穴と共に早期土器片等が検出された。沢に面した一時的なキャンプ地と考えられ、黒曜石製の石鏃(失敗品?)・チップ等も出土している。

なお、調査期間中の11月6日には諏訪市博物館で長野県黒曜石原産地遺跡分布調査指導特別委員会が行われ、出席各委員及び長野県教育委員会文化財保護課によるB地区調査の現地視察・指導を受けた。

本年度調査はC地区より開始し、次いでA地区、最後にB地区に入った。調査開始時、C地区はススキの穂やマツムシソウの花がちょうど盛りだったが、調査終了頃のB地区では広葉樹やカラマツの葉も全て落ち、冷たい小雨の中で凍えながら作業を行ったこともあった。また、A地区及びB地区の本年度調査区域は車道からの距離が遠く、なおかつ尾根上への急な斜面を毎日歩いて登り降りしなければならなかった。調査団員の皆さんにはこのような過酷な状況下で大変ご苦労いただいた点、特に感謝申し上げたい。

4. 補助事業決定の経過(抄)

平成8年5月29日付け8教社第42号

平成8年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書 市内遺跡発掘調査事業(国庫)

平成8年6月12日付け8教社第48号

平成8年度文化財補助金交付申請書 市内遺跡発掘調査事業(県費)

平成8年8月9日付け庁保伝第7号

平成8年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知 市内遺跡発掘調査事業(国庫)

平成8年8月19日付け長野県教育委員会指令8教文第2-11号

平成8年度文化財補助金交付決定通知 市内遺跡発掘調査事業(県費)

5. 調査組織

ジャコッパラ遺跡群調査団(平成7年度)

団長 吉田 守 (諏訪市教育委員会 教育長)

副団長 宮下幸雄 (諏訪市教育委員会 教育次長)

調査担当者 五味裕史 (諏訪市教育委員会学芸員)

調査員 青木正洋 (諏訪市教育委員会学芸員 平成8年10月1日から)

田中 総 (諏訪市教育委員会学芸員)

調査団員 (一 般) 小松とよみ・原 敏江・矢崎つな子・増沢清久・宮坂 毅・宮坂茂子・古畑 貞
・藤森一郎・相沢市江・小口淑子・藤森敏幸・五味真知子・関せつ子・中山碩子
・阿部節子

(大学生) 中島 透

整理作業参加 (一 般) 今野真由美・堀内多介子・宮坂鈴子

(大学生) 小松厚子・小松良彰

(事務局)

事務主幹 花岡潤吉 (諏訪市教育委員会 生涯学習センター所長)

事務局長 有賀義人 (諏訪市教育委員会 生涯学習センター諏訪市博物館館長)

事務局員 内田正次 (～平成8年9月30日)・亀割 均・五味裕史・青木正洋 (10月1日～)

堀内千晴・小林純子・田中 総 (諏訪市教育委員会 生涯学習センター諏訪市博物館)

6. 調査日誌 (抄)

平成 8 年

- 9月10日 C地区に器材搬入後、現地で結団式。一部で草刈り等行い試掘調査開始。KRC801・802グリッド設定、掘り下げ。
- 9月13日 KRC807グリッドにおいてナイフ形石器検出。
- 9月18日 KRC809グリッドにおいて黒色土中から黒曜石出土。
- 9月20日 道路上のベンチマークより各地点へレベル原点移動。KRC810グリッド深堀開始。
- 9月24日 各グリッドセクション図作成開始。
- 9月26日 KRC816グリッド掘り下げ開始。土器片が検出されたため拡張を行う。
- 10月 1日 C地区一部で図面作成及び埋め戻しを残すが各グリッドの調査はほぼ終了。A地区へ器材搬入。
- 10月 2日 KRA817～819グリッド設定、掘り下げ開始。
- 10月 9日 レベル原点移動。各グリッドセクション図作成開始。
- 10月15日 KRA817グリッド以外の各グリッド埋め戻し。器材撤収。
- 10月16日 B地区南端付近に器材搬入、KRB828～836グリッド設定、各グリッド掘り下げ開始。午後、KRB828グリッドから石器類及び礫群出土。
- 10月23日 本日KRB838グリッドまで完掘。KRB831グリッド土壌サンプリング。
- 10月24日 3名別働でKRA817グリッドの土壌サンプリング。
- 10月25日 一部グリッド除きKRB840グリッドまで埋め戻し終了。昼過ぎKRB830・840グリッドで作業中、カモシカが出現。しばらく我々の作業を眺めた後、立ち去る。
- 10月29日 KRB844グリッドまでほぼ完掘。KRB845グリッドにて黒曜石2点検出。
- 10月30日 タキオメーターによるグリッド分布図作成開始。KRB847グリッドで押型文土器片等検出。
- 11月 6日 黒曜石原産地遺跡分布調査指導特別委員会による現地視察及び現地指導。
- 11月11日 本日KRB849グリッドまで埋め戻し終了。
- 11月13日 KRB850グリッドセクション図作成後埋め戻し。湿原に面したグリッドであり、数基の風倒木根が切り合う状況であった。KRB852グリッドより石礫単独出土。
- 11月18日 KRB858グリッドまで完掘、図面作成。
- 11月20日 KRB863グリッドまで完掘、各グリッド図面作成及び埋め戻しを行い器材撤収、発掘作業終了。
- 11月29日 A地区・C地区グリッド分布図作成。午後より雪。
- 12月12日 一部補備測量を行う。

II 位置と環境

1. ジャコッパラ遺跡群をとりまく環境

霧ヶ峰は、標高1925mの車山から噴出した溶岩が、南方へ緩やかに傾斜した火山体（盾状火山）により形成される。標高1400-1700mにある草原地帯には、八島ヶ原、車山、踊場の三つの高層湿原が展開し、それらの湿原は国の天然記念物に指定されている。このように草原と湿原からなる霧ヶ峰も、昭和の前半には、標高1400m以下まで、牧場や牧草地、植林地として入植され、現在は森林地帯となっている。通称ジャコッパラ（蛇行原）と呼ばれる付近でも、このような土地利用が頻繁になされていた。

ジャコッパラ遺跡群は、霧ヶ峰南麓の標高約1300m-1580mの山間部に位置している。諏訪盆地の平坦部とは標高差が約500m以上で、気温も年間を通じて8℃ほどの差がある。従って、旧石器時代の最も寒い時期にはかなり厳しい環境下にあったと考えられる。ただし、時代によってかなり気候の変動があったことがわかっており、昭和62年に行なわれたジャコッパラNo.1遺跡の調査では、約五千数百年前の縄文時代前期後半頃の陥し穴状遺構の中からススキ・ヨシの他にコナラ・クリ等やケンボナシなどの落葉広葉樹の植物遺体が見つかった。

ジャコッパラ遺跡群付近の地形は、溶岩台地とそれを南北に区切る谷によって幾つかのまとまりに分割することが可能であり、調査にあたっては谷などを境界としてA-E地区を設定した。それぞれの尾根は階段状に延びており、尾根筋の所々に独立丘状の小ピークが認められる。

なお、これまで霧ヶ峰南麓には数ヶ所の湿地が存在することがわかっている。

2. ジャコッパラ遺跡群と周辺遺跡群

旧石器時代 霧ヶ峰の周辺では、火山活動の産物である黒曜石の産出地点が多く見つかった（第1図）。中でも和田峠周辺、霧ヶ峰の星ヶ塔付近では、良質の黒曜石が採取できることが知られている。こうした黒曜石産地の周辺では、後期旧石器時代を通じて石器製作および居住のなされた遺跡が、数多く見つかった。

これらの遺跡は、旧石器時代の遺跡としては格段に規模が大きく、黒曜石製石器類を多量に生産した跡として遺されている。また、遺跡は原産地直下に群在しており、このようなまとまりは遺跡群として、既にくいつかが知られている（第2図）。

諏訪市域においては、星ヶ塔そばの八島遺跡群を除いて、黒曜石原産地直下に形成された遺跡群はなく、踊場湿原（池のくろみ）を取り囲むようにして分布する池のくろみ遺跡群や、霧ヶ峰の高原に、点々と遺跡を形成する今回の調査対象となるジャコッパラ遺跡群は、黒曜石の産出地点よりやや距離を置いて分布する遺跡群である。また、霧ヶ峰西南麓となる諏訪湖東岸付近では、諏訪湖を臨んで立地する茶臼山遺跡や上ノ平遺跡、北踊場遺跡など学史上重要な遺跡で構成される諏訪湖東岸遺跡群があり、この場合は、原産地から10km近くも離れることとなる。

これらの遺跡群の分布状況は、黒曜石原産地の多様な姿を反映したものであり、その立地条件は、遺跡(群)の構造を理解する上において無視できないであろう。

霧ヶ峰の遺跡群の年代については、今のところデータが十分整備されている状況ではないが、約22000年前のA T 降灰以前から形成されていたとみられる遺跡が存在する。例えば台形椀石器やナイフ形石器を主体とする池のくるみ遺跡C地点は、その特徴から立川ロームのVI層相当の古さが考えられている。また、近年に調査されたジャコッパラNo.8遺跡やジャコッパラNo.12遺跡の一部も、これに準ずる古さを持つ石器群と考えられる。

これらに後続する遺跡(群)には、雷不知遺跡や物見岩遺跡、そして八島遺跡などを含めた八島遺跡群が相当する。これらの遺跡からはナイフ形石器や槍先形尖頭器を主体とする石器群が見つっている。特に八島遺跡では、これら遺跡群の中でも石器生産量が増加している。男女舎遺跡群や鷹山遺跡群でも同じ内容の遺跡があり、黒曜石原産地において尖頭器を生産する当該期の遺跡の特徴をあらわしている。

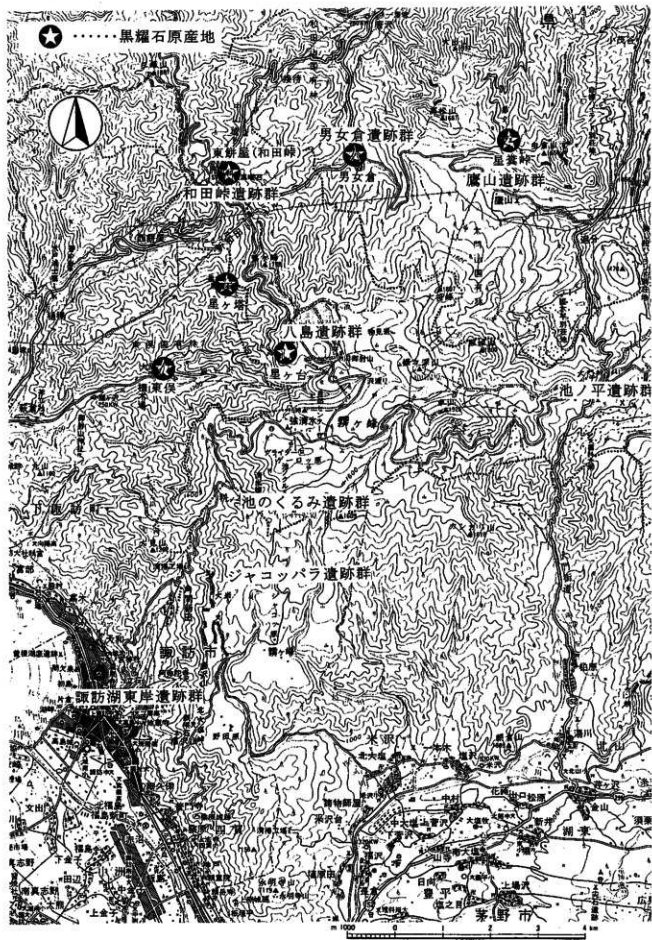
霧ヶ峰の遺跡群では、湿地のまわりに遺跡が点在して構成されるものが多く、この傾向は、鷹山遺跡群やもも湿地であった白樺湖にある池の平遺跡群にも共通する特徴であることが注意されている。遺跡(群)の占拠条件に、水場の有無が大きく関わっていたことを暗示するものとして捉えることが出来るが、こうした湿地が山間部から平地に流れ出す小河川の源流にあたることも、この地に人間が集い、生活場所を設けた背景の一つであったとも考えられる。

縄文時代 縄文時代における霧ヶ峰一帯は、当時の人々にとってはさまざまな山の幸をもたらす場所であったと考えられ、キャンプ地や狩猟場の跡が発見されている。ジャコッパラ遺跡群では、ジャコッパラNa.1・Na.6・Na.8の各遺跡から数基単位で陥し穴状遺構が発見され、中でも広範囲にわたる発掘調査を実施したジャコッパラNa.1遺跡等では、沢沿いの斜面に陥し穴状遺構が一定の配列を保って分布することが判明し、組織的な陥し穴の存在を裏付ける成果を得た。今後、分布調査の進展によっては、さらに多く検出されると予想できる狩猟場の形態の一つである。

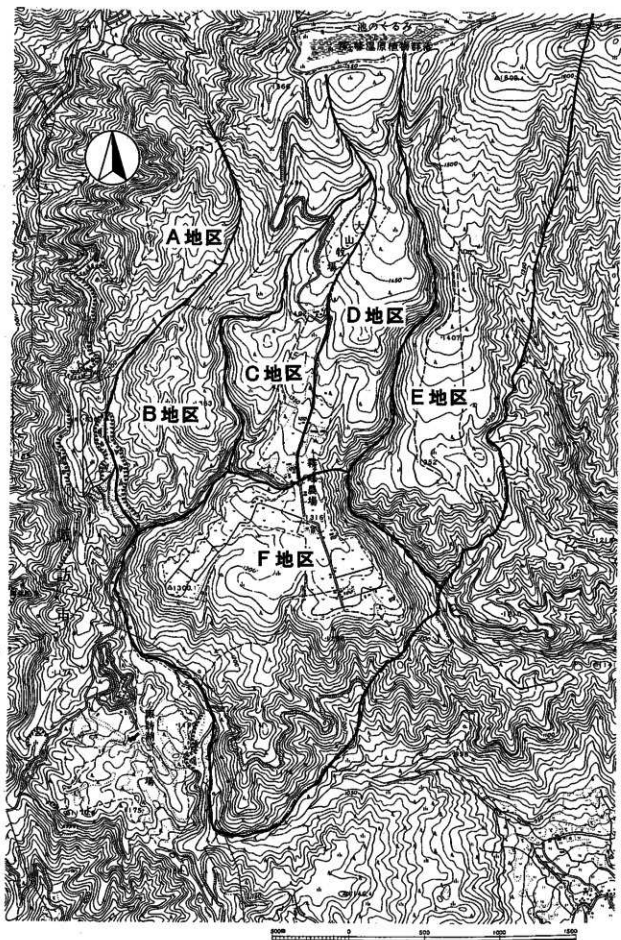
この陥し穴の開始時期は定かではないが、ジャコッパラ遺跡群では縄文前期頃には行なわれていたらしいことが、ジャコッパラNa.1遺跡の陥し穴状遺構から見つかった炭化物の年代測定によって確認されている。

霧ヶ峰高原における黒曜石原産地としての縄文時代遺跡の分布状況は、旧石器時代に比べ顕著ではない。そのかわり、黒曜石原産地で直接採取を行なった痕跡として“採掘”跡が星ヶ塔をはじめとして見つっている。かつて島居龍藏氏が『諏訪史』の中で、星ヶ塔の黒曜石の産状を吟味し、そこに分布する窪みの跡を作業場または露営の跡と解釈したことで、縄文時代の黒曜石採取の組織化を予見したことはよく知られている。そして、1958年、藤森栄一氏、中村竜夫氏により行なわれた星ヶ塔の調査では、切り通しに露呈した黒曜石採掘坑が発見され、調査の結果、窪みが黒曜石の採掘跡であることが確認された。最近では、長門町星ヶ峰付近での黒曜石採掘坑の存在が知られたのをはじめ、下諏訪町東俣からも黒曜石採掘跡とみられる遺構が発見されている。

この盛んに行なわれた黒曜石採取の状況を反映した遺跡は、ジャコッパラ遺跡群内では見つかってはいない。しかし、角間川沿いの縄文時代遺跡に多量の黒曜石が集積された状況がうかがえることから、原産地から直接、ここまで運び込まれていたものと思われる。



第 1 図 ジャコッパラ遺跡群と周辺の旧石器時代遺跡群



第2図 調査区の区割り



第3図 平成8年度調査範囲と周辺の道路

地区	番号	遺跡名	所屬時期	市内番号	調査歴
地区外	1	細久保遺跡	縄文早・前期, 弥生中期	409	昭和25・26年一部発掘調査
C・D	2	霧ヶ峰農藝遺跡	旧石器, 縄文前期, 中世	411	昭和54年, 遺物採集により発見
	3	池のくるみA遺跡	旧石器, 縄文早・前・中期, 平安	412	
調査	4	池のくるみB遺跡	旧石器, 縄文早期	413	
	5	池のくるみC遺跡	旧石器, 縄文早期	414	昭和42年, 一部発掘調査
地区外	6	池のくるみD遺跡	旧石器, 縄文早・前期, 平安	415	
C	7	ジャコツバラNo.1遺跡	旧石器, 縄文前期?(陥し穴)	418	昭和62年, 一部発掘調査
B	8	ジャコツバラNo.2遺跡	旧石器	431	平成元年, 遺物採集により発見
B	9	ジャコツバラNo.3遺跡	旧石器, 縄文?	432	平成3年, 分布調査により発見
B	10	ジャコツバラNo.4遺跡	旧石器, 縄文早期(陥し穴)	433	平成3年, 分布調査により発見
B	11	ジャコツバラNo.5遺跡	旧石器	434	平成3年, 分布調査により発見
B	12	ジャコツバラNo.6遺跡	旧石器, 縄文?(陥し穴)	435	平成4年, 分布調査により発見
D	13	ジャコツバラNo.7遺跡	縄文?	436	平成4年, 分布調査により発見
D	14	ジャコツバラNo.8遺跡	旧石器, 縄文?(陥し穴)	437	平成4年, 一部発掘調査
C	15	ジャコツバラNo.9遺跡	縄文早期	438	平成4年, 分布調査により発見
C	16	ジャコツバラNo.10遺跡	縄文早・中期	439	平成4年, 分布調査により発見
C	17	ジャコツバラNo.11遺跡	縄文早期(陥し穴)	440	平成4年, 分布調査により発見
B	18	ジャコツバラNo.12遺跡	旧石器, 縄文	441	平成5年, 一部発掘調査
D	19	ジャコツバラNo.13遺跡	縄文	442	平成6年, 分布調査により発見
D	20	ジャコツバラNo.14遺跡	旧石器・縄文(陥し穴)	443	平成6年, 分布調査により発見
D	21	ジャコツバラNo.15遺跡	縄文	444	平成7年, 一部発掘調査
D	22	ジャコツバラNo.16遺跡	縄文?	445	平成7年, 分布調査により発見
D	23	ジャコツバラNo.17遺跡	縄文?	446	平成7年, 分布調査により発見
A	24	ジャコツバラNo.18遺跡	縄文?	447	平成8年, 分布調査により発見
B	25	ジャコツバラNo.19遺跡	旧石器・縄文	448	平成8年, 分布調査により発見
B	26	ジャコツバラNo.20遺跡	旧石器・縄文	449	平成8年, 分布調査により発見

(『諏訪市の遺跡』等をもとに作成)

第1表 周辺遺跡一覧表

III 平成8年度遺跡分布予備調査の概要と成果

1. 平成8年度調査区の概要と基本土層について

今年度の調査は前述したように、KRA・KRB・KRCの3地区が対象となったが、A地区に関してはほぼ全域、B・C地区に関しては過去の調査において、時間的な理由などで、未調査だった地域を重点的に調査している。今年度の調査により、今まで同じ地区内でありながら詳細が不明だった地点もデータを取る事ができ、A～D地区に関しては当初調査予定の範囲内について、ほぼ全域に網羅することができた。これによりさまざまな比較ができることとなった。後述する土層堆積データなどもそのひとつである。

KRA地区は池のくろみからつながる尾根筋で、東西を急峻な谷で囲まれた瘦せ尾根部である。谷を挟んで東側は昨年度調査したやや広めの緩斜面が広がり、その下方にはジャコッバラNa2遺跡およびNa3遺跡が形成される。尾根は谷で区切られ舌状を呈し、その根本部分ではやや広めの馬の背状の平地をもつが、その後緩やかに下りながら細くなり谷に吸収されてしまう。その平地部分を中心として、817～827グリッドの11ヶ所の試掘坑を設定した。

ほとんどのグリッドで風雨等によるものなのか、土層堆積が不安定で、ローム層の堆積が認められず表土から直接赤色がかつた安山岩の風化礫を主体とする岩盤層(5層)になっている。これら暗褐色土やローム層の欠如の理由としては、背後の北西側の山しか風を遮るものが無いこと、その山からは吹きおろしの風、また谷からの吹き上げの風等によりいわゆる吹き曝しの状況で侵食・風化されているものと考えられる。実際、調査期間中も風の通り道となって、強風が吹き寒さを感じることも多かった。このような状況下のためか遺構の検出はどのグリッドからもみられず、遺物は比較的土層の安定している山寄りの地点において黒曜石剥片が1点表採されたのみであった。過去の調査のデータなどから考えると、土層堆積の比較的良質な場所に関しては、遺跡の存在する可能性があるため、包蔵地として把握することにした。

KRB地区の調査は、平成3年度の調査において、ジャコッバラNa4および5遺跡が発見された本沢右岸の尾根・台地の西側で、やや広い湿地を挟んだ対岸に位置する台地とそれにつながる尾根筋が対象となった。また、平成3年次には調査できなかった湿地の周囲についても、植生に配慮しながら調査を行った。時期的には3年次の調査とほとんど変わらぬ晩秋であったが、湿地の水位はやや少なめであった。

試掘坑は828～864グリッドまでの36ヶ所を設定し、うち10ヶ所の試掘坑から遺物の出土が確認され、この地区も他の調査区と同じく旧石器から縄文時代に渡る遺跡であることが把握された。なかでも、828グリッドで出土した黒曜石器類およびチャート剥片はローム層中からの検出であり、周囲には礫が散点残されている状況からも貴重な発見であった。また縄文時代早期の押型文土器片が集中して発見された847グリッドは湿地に向かうやや鞍部気味になった場所に設定しており、湿地との比高差も10mほどであることから、該期の人間の生活パターンを考えさせる出土例であろう。ただし、今回の調査でもいわゆる湿地と同じレベルに設定した試掘坑からは遺物の検出はなく、ジャコッバラ遺跡群と他の遺跡群との関係は課題として残ったといえよう。

なお、この尾根は下方につながるが、既に鉄平石の採掘により尾根の平坦部が削られているため、どのような広がりをするのかについては不明である。しかし過去の調査例からみると平坦部分については遺跡が広がる例が多いことから考えても遺跡が存在していた可能性は高いと思われる。

C地区については、801～816グリッドの16ヶ所の試掘坑を設定した。ジャコッパラNa1遺跡から本沢に落ち込む緩斜面が主体となるが、本沢の最上流域で湿地化している周囲についても調査を行った。沢添いの低地でも試掘坑を調査しているが、遺構・遺物の発見はなく、やや沢に向かって張り出している微高地において焼土を伴う小竪穴と縄文早期の土器片を検出しており、一時的なキャンプ地として滞在していたものと推測される。土層の堆積が不安定で、沢沿いということもあってか流れによる影響がかなり認められており、遺構・遺物の残存状況は想像以上に悪かった。

なお、今回の調査域のやや下流には沢からの比高差はあるものの4年度の調査により縄文早期（押型文土器期）を中心とするNa11遺跡が確認されており、今回の発見との関連が注意される。地形上の理由からジャコッパラNa1遺跡の範囲を広げる資料として把握しているが、時期的な点から考えるとNa1との関係も推測されよう。

今回の調査における基本土層は次に示すとおりである。なお今回の基本土層は調査した箇所では土層堆積状態のよかった845グリッドと853グリッドの状況をもとに過去の調査のデータを加味しながら、霧ヶ峰分布予備調査全体の基本土層として把握したものである。分布予備調査も6年を数え、調査地区や各地点で多少のばらつきあるいは欠如等も見受けられるが、おおよそのパターンは理解できたものと思われるため、ここで比較を図る意味でも対応土層が必要となった。全てがこれに当てはまるわけではなく、例外もあるが霧ヶ峰における土層基本層序はこの堆積が基本となろう。

なお、今までの報告にある土層注記については、本報告時に修正を図る予定である。

【ジャコッパラ遺跡群基本土層】

- | | |
|---------------|--|
| 1層 黒色土 | 腐植土による表土層。 |
| 2a層 黒色土 | 土層は1層と同じだが、若干しまりが強くなる。縄文時代遺物包含層。 |
| 2b層 暗褐色土（漸移層） | ローム粒子混入し、粘性・締まりとも認められる。 |
| 3a層 明褐色ローム | いわゆるソフトローム。板状及び亜角礫の安山岩が多数入る。 |
| 3b層 褐色ローム | いわゆるソフトローム。色調は赤味が強く、粘性・締まりとも認められる。
堆積は薄く、安定していないことが多い。 |
| 3c層 褐色ローム | いわゆるソフトローム。黒色粒・スコリア粒を含み、粘性・しまりとも認められ、土質はハードロームに近いが比較的軟質である。ソフトロームからハードロームへの漸移層的变化のみられる土層である。 |
| 4a層 褐色ローム | いわゆるハードローム。上層に比べ硬質化し、黒色粒・スコリア粒の他、細砂粒が多く含まれる。小豆大の風化礫も少量混じる。ソフトロームとの層界は不整合的な場合が多い。 |
| 4b層 褐色ローム | いわゆるハードローム。4a層より暗さと硬さが増し、細砂粒の混入の割合は少なくなることで粘性がやや増す。 |

(上記の4a・4bの2層については、場所によってクラックが生じる試掘坑が多く見受けられた。クラックの直接的な原因については未だ解明されていないが、地下水の流れやいわゆる地滑りの要因が推測される。なお、クラックの方向については尾根側から谷に向かっての傾斜方向が基本的なパターンであり、過去6年間の調査では他の方向については認められていない。)

- 4c層 褐色ローム いわゆるハードローム。土質は4b層に似るが、色調は暗さを増す。灰褐色を基調とする斑状の火山砂のブロックを多量に混入する。
- 4d層 褐色ローム 安山岩起源と思われる白色粒子を多量に含み、スコリア粒も少量含む。4c層よりやや明るく、やや軟質である。粘性・しまりとも認められる。
- 4e層 褐色ローム 4d層よりやや硬質で、白色粒子は減る。スコリア粒は多量に含有される。
- 4f層 暗灰褐色砂質ローム 火山砂が主体となった非常に硬質な砂質ローム。白色粒子は少ないが、スコリア粒や黒色粒は多量に混入する。
- 4g層 褐色ローム やや白味があった硬質ローム。火山砂、白色粒などの含有物ほとんどなし。
- 4h層 褐色ローム 軟質で、白色粒子を少量と多量のスコリア粒を含む。
- 4i層 褐色ローム 4h層と同質であるが、スコリア粒の量が減り、白色粒も減少する。
- 4j層 暗褐色ローム 非常に硬質のやや砂質のローム層。スコリア粒が多量に混入し、黒色粒も若干増える。
- 5層 赤茶褐色ローム層(基盤層) やや赤味があった土層で、安山岩の腐食礫が多量に混入する。粘性はあるが、しまりはやや粗い。霧ヶ峰の各調査地点における基盤・岩盤層と認識される。
- (土層の細分は可能であると思われるが、調査地点によって多種多様であることや、かなり深く掘らないと検出できない土層であるため、現段階ではアーターが少ないのでここでは5層として一括して把握することとした。)

2. A地区

A地区では崖へと下って行くやや痩せた尾根筋を中心として、標高約1,500~1,490mの地点に2m×2mの試掘坑8ヶ所、1×3mを3ヶ所、計11ヶ所の試掘坑を設定した。前述のように尾根上は全体的に土層堆積が安定しておらず、ローム土の堆積がほとんど見られない地点もあった。また、ある程度ローム層の堆積が認められる地点でも、連続的な安定堆積であるとは判断できなかった。以下、主要グリッドの状況について述べてい。

KRA817グリッド

本年度の調査地点中最も標高が高い場所に位置する。土層断面図中の7は、橙色バミスの純層であり、6はそのブロックを多く含むやや軟質なローム土である。

本グリッドはA地区の試掘坑中で最も堆積状況が安定(?)していると見られたため、土層サンプリングを行った。

KRA819グリッド

表土下は、スコップで十分割れるような桃色がかった軟質の安山岩礫を多量に含むローム土で、そのまま岩盤へと続くらしい。

KRA821・822グリッド

817グリッドの両側の尾根斜面に設定した。いずれも谷筋の最奥部付近にあたり、陥し穴状遺構の存在が予想されたため、等高線に対してほぼ平行な1m×3mの試掘坑を設定したが、遺構・遺物は検出されなかった。ただし、周辺地形や斜面の傾斜等を考えるとKRA822グリッド側の谷については陥し穴状遺構の存在も予想される。

KRA823グリッド

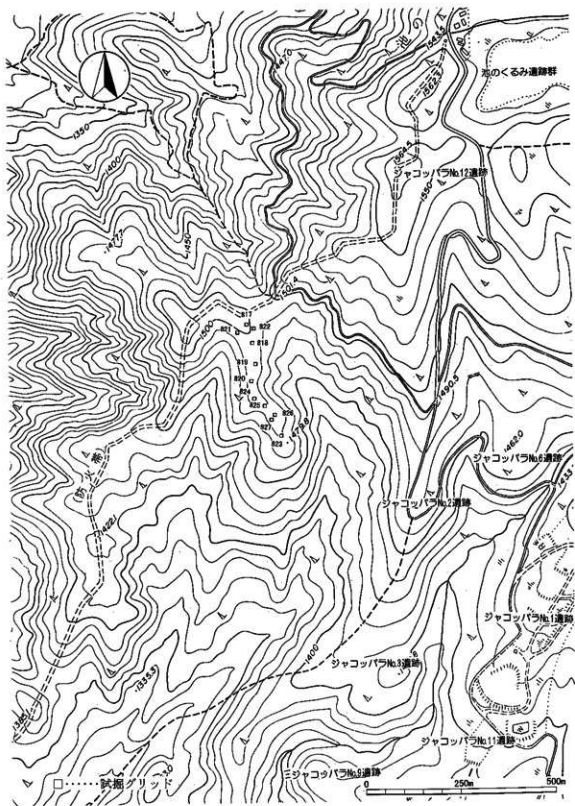
尾根の最先端に位置する。尾根はこの南側で幅を広げながら傾斜を強めてゆく。ローム土の堆積はほとんど認められなかった。

KRA826グリッド

尾根上の小ピーク直下に位置し、土層堆積がほかのグリッドに比べ安定していると考えられる。ハードロームまで掘り下げたが遺構・遺物共に検出されなかった。

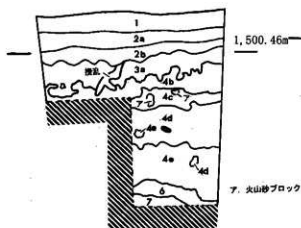
KRA827グリッド

826グリッド西側の斜面に1m×3mの試掘坑を設定した。拳大から人頭大の礫を含む。ソフトローム上層まで掘り下げたが遺構・遺物共に検出されなかった。

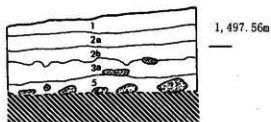


第4図 平成7年度分布予備調査試験グリッド分布図(1)

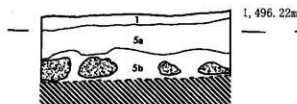
KRA817グリッド



KRA818グリッド



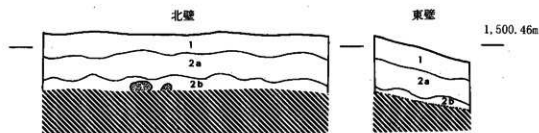
KRA819グリッド



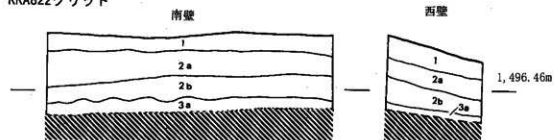
KRA820グリッド



KRA821グリッド

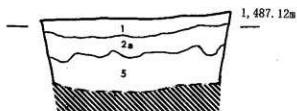


KRA822グリッド



第5図 試験グリッド土層断面図(A地区その1) S=1/40

KRA823グリッド

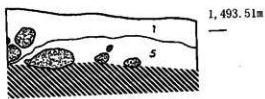


KRA824グリッド

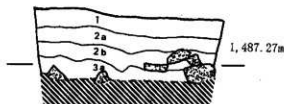
西壁



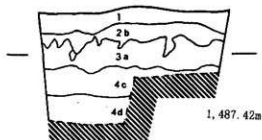
北壁



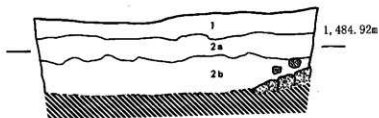
KRA825グリッド



KRA826グリッド



KRA827グリッド



第6図 試掘グリッド土層断面図 (A地区その2) S=1/40

3. B地区

B地区の本年度調査区域は、ジャコッパラNo4・No5遺跡から湿原を隔て、南北に細長い独立丘陵状の尾根筋である。36ヶ所の試掘グリッドを設定し、うち10ヶ所で遺構・遺物が検出された。

KRB828グリッド

本グリッドはやや幅広く平坦な尾根筋の中心付近に位置する。ソフトローム下部を中心として礫群及び石器類が検出された。出土層位は3a層の下面付近であり、遺物・礫群ともほぼ同レベルで検出されている。礫及び石器類の分布から、この遺構は更に北側又は西側に広がっている可能性が高い。出土遺物は黒曜石原石及び剥片とチャート剥片であり、明確なツール類は検出されていない。

礫群の礫は数cm大～30cm大ほどの安山岩角礫で、いずれも割れ面を有する。本試掘グリッド内では6点が検出された。ほとんどの礫の表面には被熱によるものと考えられる赤化や、部分的に煤状及びタール状の黒色の付着物も見られることから、これらの礫は火の使用に関係したものである可能性が高い。また、最も大きな礫は長さ約30cm・厚さ約10cmで上・下面が平らな台状を呈し、上面側には表面の剥落痕が認められることから、台石等として使用された可能性がある。

KRB829グリッド

北側の尾根頂部に向けて入る、小規模な谷の底部に1m×3mの試掘坑を設定した。流れ込みによる黒土の厚い堆積が認められ、黒色土中より黒曜石剥片が1点検出されたが遺構は検出されていない。

KRB832グリッド

独立丘陵状の尾根頂部付近に位置する。この試掘グリッドのほか、KRB831グリッド等でもハードローム層中に大規模なクラックが確認されている。これらのクラックは過去の調査においても尾根筋等においてしばしば認められているが、いずれも近い斜面の方向への傾斜を見せていることから、恒常的に「崩落」しようとする物理的な力がかかっている上に何らかの要因が加わり生じたものであることが予想される。なお、ハードローム層中のクラックには、この種のものの他に、かなり細かくヒビ状に入るものかかなりの頻度で認められている。

KRB835グリッド

2a層から2b層にかけて黒曜石剥片・石核等が検出されている。

KRB837・KRB838グリッド

尾根が一旦くびれる鞍部と、湿原側から入る小支谷に設定した試掘グリッドの黒色土中から、縄文土器片及び黒曜石製石核が検出されている。

KRB845グリッド

2 b層と3 a層から、黒曜石剥片と原石が各1点検出されている。

KRB847グリッド

尾根筋のゆるやかな鞍部のやや湿原側に位置する。2 a層から2 b層にかけて、縄文時代早期の押型文土器片等20数点が検出された。土器片はいずれも小片・細片である。このほかに、石鏃及びハンマーストーン等が検出されている。

KRB852グリッド

尾根頂部から湿原側斜面への下り際に設定されたグリッドから黒曜石製石鏃が単独出土した。

KRB850グリッド

湿原の縁に広がる平坦部に設定されたグリッドであり、尾根頂部との比高差は約12mを測る。表土下からは藪草の風倒木痕が切り合って検出された。さらに現表下約1mより下層は、灰色がかったいわゆる水つきローム様の堆積層である。この地点の地表レベルは、現在の湿原面よりやや高いが、かつては湿原がこの平坦面と同レベルで、開折等の結果湿原から取り残された可能性が高い。なお、11層中にはA地区KRA817グリッドや平成6年度調査のKRD228グリッドの最下層にて検出されたものと同様の橙色バミス純層が入る。遺物は検出されなかった。

KRB地区の出土遺物 (第17～19図)

第17・18図1～7はKRB828グリッドの出土遺物である。これらの遺物は3 a層としたソフトローム中から出土しており、同層中に構築された礎群(配石遺構?)にも伴っている。これらは後期旧石器時代に属するものとみられ、石器類は総数7点が出土しているが、明確なツールは含まれていない。

第17図1～4は黒曜石製の剥片類である。これらのうち2～4の黒曜石には赤紫色を呈する霜降状の斑点が特徴的にみられ、同一母岩の可能性がある。

1は縁辺の整った縦長剥片である。剥片の尾部が膨らむ、「し」字状を呈しており、頭部にあたる打面には、パンチ痕のほか、剥片剥離作業以前に施された調整剥離が認められることから、打面を念入りに調整した石核から剥離されたものであることがわかる。また、剥片の表面に残された複数の剥離痕からは、剥片の打面側から、打点を左右に振るかたちで、恐らくは縦長指向の剥片剥離作業が連続して行われたことがうかがわれる。また、この時点では単設打面を持つ石核であったことが指摘でき、また、剥片表面と尾部に取り込まれた黒曜石の自然面の状況からは、角状もしくは板状の礫を用いていたことが判断される。剥片の両縁辺には微細な剥離痕が認められ、とりわけ裏面からみた右側縁辺の一部には鱗状に重なり合う顕著な剥離痕がある。これについては、剥離の重なり合いが階段状を呈するステップフレイキングであること、加撃部分がつぶれていることを考慮するならば、二次的な調整加工と扱うより、剥片縁辺を硬質な物体に打ち当てた際に生じた一種の使用痕とみたほうが妥当であろう。

2・3は折れ面を持つ剥片で、2は剥片尾部、3は尾部と縁辺の一部が折れている。二次的な調整加工は認められない。2の打面は剥離によって作出された打面である。

4は部厚な剥片で表面には原石面が多く残る。剥片表面の下端には大きく剥離痕がみられるが、原石分割の際の剥離面か、剥片剥離作業面なのかは判断がつかない。裏面の打点付近は細かくつぶれ、破砕しているが、これは剥片剥離の際行なわれた、複数回の打撃によるものと考えられる。打面には平坦な自然面を用いており、裏面の下端には連続する微細な剥離痕が認められる。

第18図5は黒曜石の原石で、重量は67.18あり、表面全体が白く風化した円碟状を呈している。剥離の痕跡等は認められない。

第18図6・7は同一母岩に属するとみられるチャート製の剥片である。7は剥片の上端と下端が折取等によって除去されている。二次的な調整加工は施されていない。

第18図8～10はKRB837グリッドの出土遺物である。8の一部と10については原位置を失っているが、出土層位は黒色土である2a～2b層を確認している。

8は縄文時代早期の押型文土器の口縁部破片である。横位一段の山形文が施されており、外反する口縁部形態を呈する。そのため押型文原体である彫刻棒の付着が屈曲部付近で安定せず、原体末端部の付着が認められる。断面角頭状の口唇面は平滑にナデられ、口唇直下の器内面には浅い指頭圧痕が残されている。胎土には白色粒子の混入が多く認められ、黒色雲母の混入もみられる。焼成は良好である。

9は条間のやや開いた節の大きな単節縄文RLが施されている。胴部破片とみられ、胎土は8に近似する。押型文土器に伴う縄文施文の土器とみられる。

10は黒曜石製の石核で、角礫を素材としている。打面は礫の上端と下端に設置されており、上端は剥離による打面作出が認められる。

第18図11はKRB838グリッド出土の縄文早期の押型文土器の胴部破片である。縦位方向に山形文が密接して施されている。胎土には砂粒が多く含まれ、黒色雲母の混入が認められる。

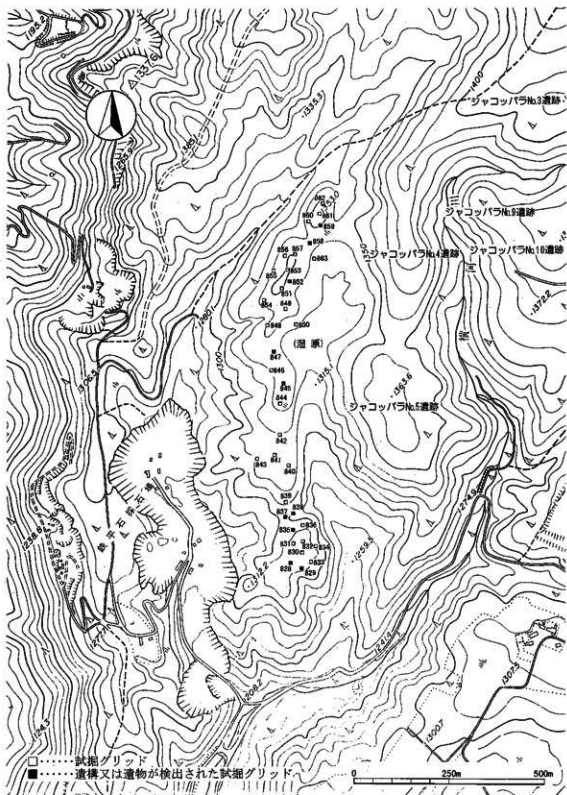
第18図12はKRB852グリッド出土の黒曜石製の石礫である。両面調整による凹基無茎礫で右脚先端を欠く。縄文時代の所産と思われるが、土器類の伴出がみられなかったため、帰属時期は不詳である。

第19図13～23はKRB847グリッドの出土遺物である。ここでは2a～2b層にかけて16点の縄文時代早期に属する土器類と、これに伴う6点の石器類が出土している。なお、石器類については図示した2点のみツールとして認定できたが、その他は黒曜石の破片等であった。当地点が石器製作所にあたるのかは判然としない。

13～21は縄文時代早期の押型文土器である。13～19には山形文、20・21には楕円文が認められる。なお、14と15は同一個体である。山形文のうち13～17は縦位、18・19は横位の施文方向となる。小破片が多いため器形および文様構成の判別は不可能であるが、押型文原体の特徴や密接施文という技法から判断して、押型文土器群後半の細久保式土器に属するものと考えられる。胎土は全体的に砂粒が多く含まれる傾向があり、20を除くすべてには微量ながら金色雲母が含まれる。判別のできるものでは内面はナデによる整形が認められ、焼成は何れも良好である。

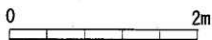
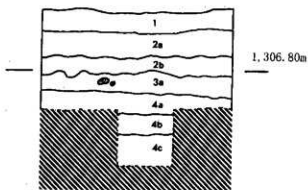
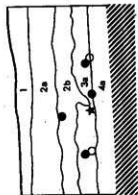
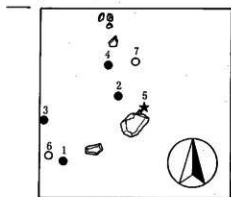
22は黒曜石製の石礫であり、両面調整によって仕上げられた凹基無茎礫である。左脚を大きく欠いているが、形態は押型文期に伴うことで知られる、いわゆる「楕形礫」に属するものである。

23は砂岩製の敲石（ハンマー・ストーン）であり、石器製作に関するツールと考えられる。先端部に敲打痕が認められ、約65°の傾斜角がある。これは剥片生産作業に際して、石核などの対象物への振り下ろし角に起因するものと想定できる。

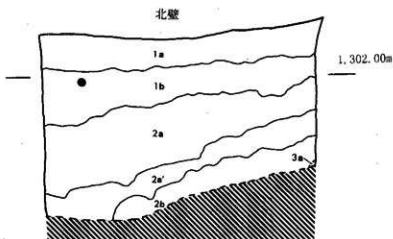


第7図 平成8年度分布予備調査試掘グリッド分布図(2)

KRB828グリッド

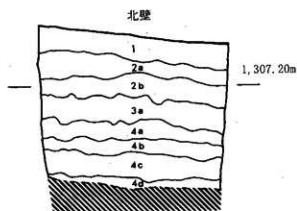


KRB829グリッド

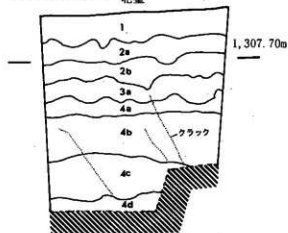


第 8 図 試験グリッド土層断面図 (B地区その1) S=1/40

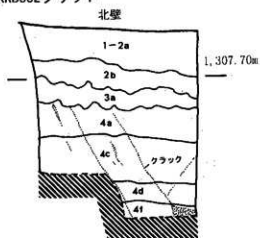
KRB830グリッド



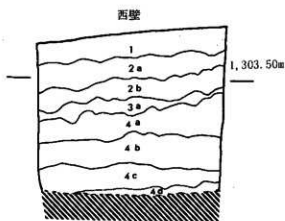
KRB831グリッド 北壁



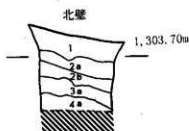
KRB832グリッド



KRB833グリッド

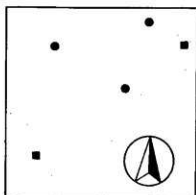


KRB834グリッド

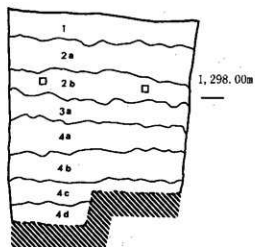
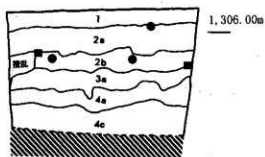
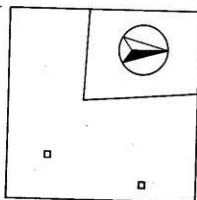


第9図 試掘グリッド土層断面図 (B地区その2) S=1/40

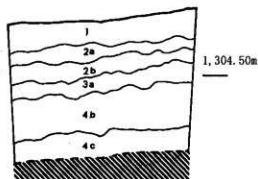
KRB835グリッド



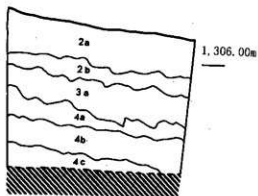
KRB837グリッド



KRB836グリッド

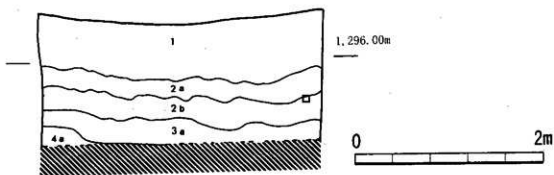
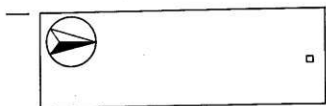


KRB839グリッド

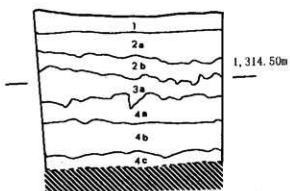


第10図 試掘グリッド土層断面図 (B地区その3) S=1/40

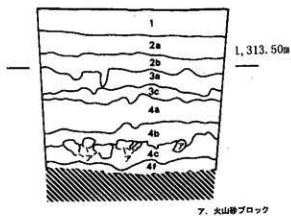
KRB838グリッド



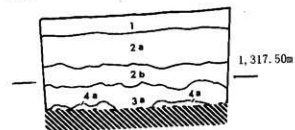
KRB840グリッド



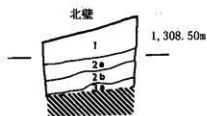
KRB841グリッド



KRB842グリッド

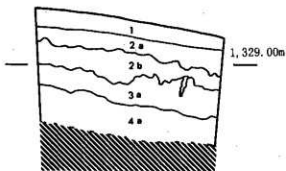


KRB843グリッド

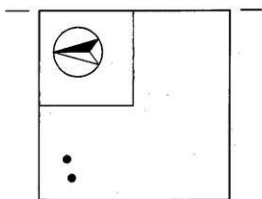


第11図 試掘グリッド土層断面図 (B地区その4) S=1/40

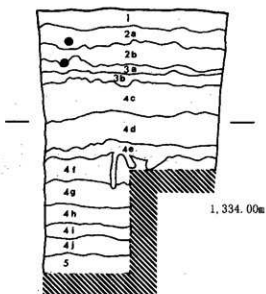
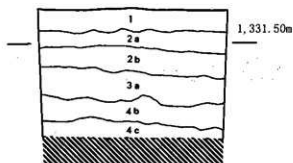
KRB844グリッド



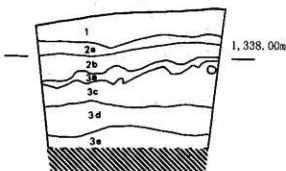
KRB845グリッド



KRB846グリッド

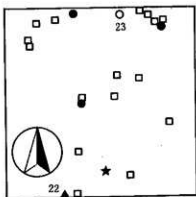


KRB848グリッド



第12図 試掘グリッド土層断面図 (B地区その5) S=1/40

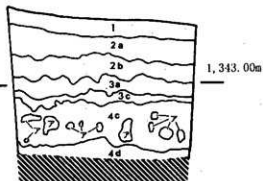
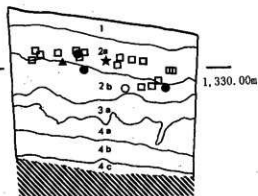
KRB847グリッド



- ▲.....黒曜石製TOOL類
-黒曜石製以外の石器類
-黒曜石製片・碎片等
- ★.....黒曜石原石
-土器片



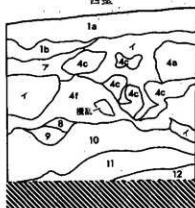
KRB849グリッド



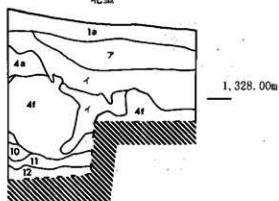
ア. 火山砕ブロック

KRB850グリッド

西壁



北壁

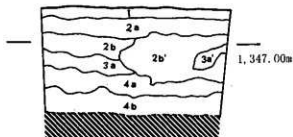


- ア. 黒色土 ローム粒・小ブロック多く含む
- イ. 暗褐色土 ローム粒・小ブロック多く含む
- イイ. より大きいロームブロック含む

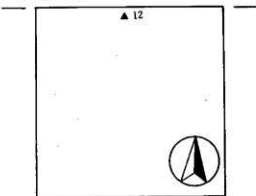
- 8. 暗褐色土 褐色スコリア・黒色粒子含む
- 9. 8より暗色
- 10. 暗褐色土 黒色粒子・灰色粒子(スコリア?) 含む、やや灰色味帯びる
- 11. 10に似るが暗色バミス含む 部分的にバミスの純層が入る
- 12. 11より淡色を呈しバミスは11より少ない

第13図 試掘グリッド土層断面図(B地区その6) S=1/40

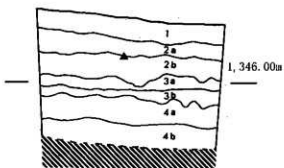
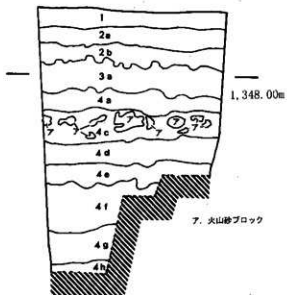
KRB851グリッド



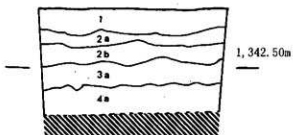
KRB852グリッド



KRB853グリッド

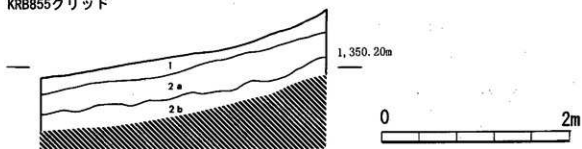


KRB854グリッド



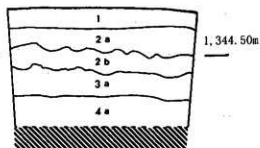
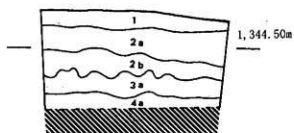
第14図 試掘グリッド土層断面図 (B地区その7) S=1/40

KRB855グリッド

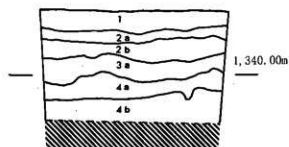


KRB857グリッド

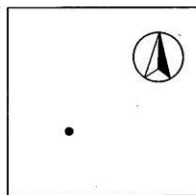
KRB856グリッド



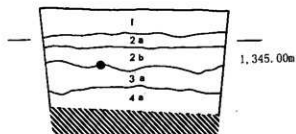
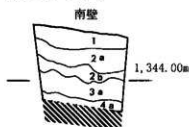
KRB858グリッド



KRB859グリッド

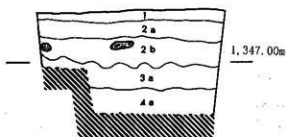


KRB860グリッド

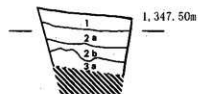


第15図 試験グリッド土層断面図 (B地区その8) S=1/40

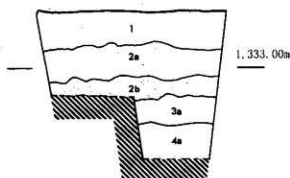
KRB861グリッド



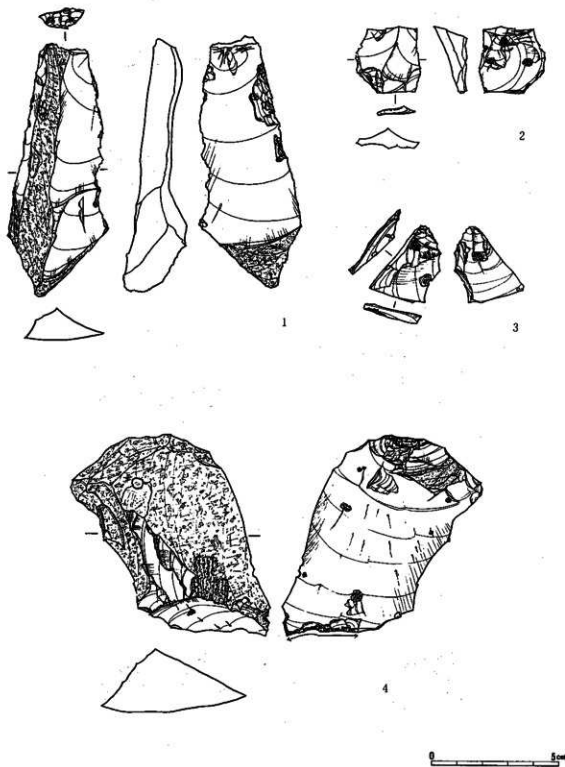
KRB862グリッド



KRB863グリッド

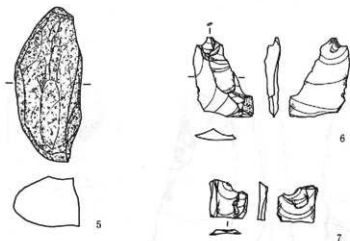


第16図 試掘グリッド土層断面図 (B地区その9) S=1/40

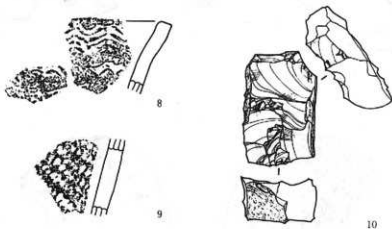


第17図 B地区出土遺物(その1) S=2/3

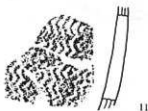
KRB828^ク リット



KRB837^ク リット

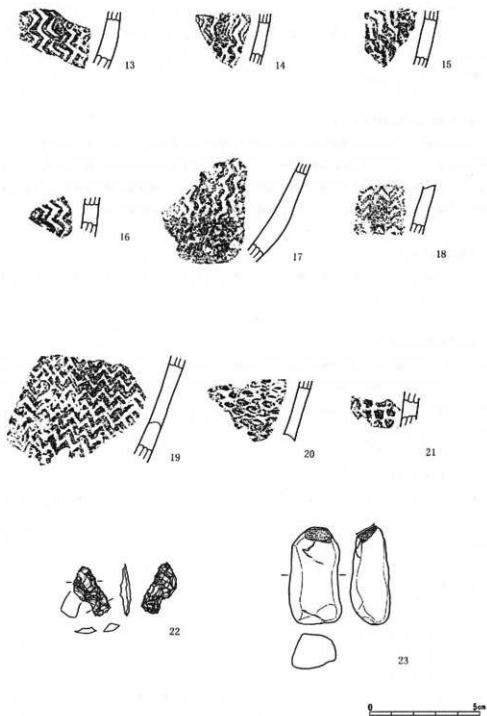


KRB838^ク リット



KRB852^ク リット





第19図 B地区出土遺物(その3) S=2/3

4. C地区

本年度のC地区調査区域はジャコッバラNo1遺跡の西半部分にあたる。この付近では以前、尖頭器をはじめとする黒曜石製の石器類が数十点表面採集されている。16ヶ所の試掘グリッドを設定し、6ヶ所の試掘グリッドにおいて遺物が検出された。また、KRC803グリッド付近から市道にかけての裸地において、黒曜石剥片等数点が表面採集されている。

KRC803・KRC804グリッド

市道から本沢へ下る道筋の裸地化した部分で黒曜石剥片が2点表面採集されたため、ここに2ヶ所の試掘坑を設定した。すでに黒色土は流失しており、ローム質の表土下はハードローム層であった。この地点はかつて尖頭器が表面採集された地点の脇であるためハードローム上層部まで掘り下げを行ったが、表土中から黒曜石剥片と原石が出土したのみで、明確な遺構を捉えることが出来なかった。

KRC805グリッド

市道下の斜面に位置し、炭焼き跡が検出された。地元の方の話では、この付近でも以前しばしば炭焼きが行われていたとのことである。

KRC807グリッド

本沢沿いの平坦面と市道側のやや急な斜面との境界に設定した試掘グリッドである。2b層から黒曜石製のナイフ形石器と黒曜石の小原石が検出された。漸移層以下には拳大から人頭大の礫を多く含み、斜面側からの崩落による土層堆積の影響が大きいと判断される。出土遺物も恐らく斜面上方からの流れ込みであるものと思われる。

KRC808グリッド

KRC807グリッドと本沢の川とのほぼ中間に位置する。表土以下礫をかなり含む。漸移層の下は白色粒子を含むやや軟質なローム層（4b層相当？）となっており、部分的に鉄分の沈着による赤褐色の水平な層が認められた。

KRC809グリッド

本沢沿いの緩斜面から黒曜石剥片等が検出された。2a層から2b層上面にかけての検出であり、縄文時代に属するものと考えられる。

KRC816グリッド

西側（本沢）に向けて張り出したごく小規模な尾根上の緩斜面に位置する。南北は小支谷で区画されている。2a層～2b層にかけて縄文時代早期土器片及び黒曜石製石鏃未製品等が検出された。土器片は1点を除きすべて同一個体の破片である。また、炉跡と考えられる、覆土中に焼土層を含む小竪穴が1基検

出されている。恐らく該期の小規模なキャンプ跡であると考えられる。

KRC地区の出土遺物（第25図）

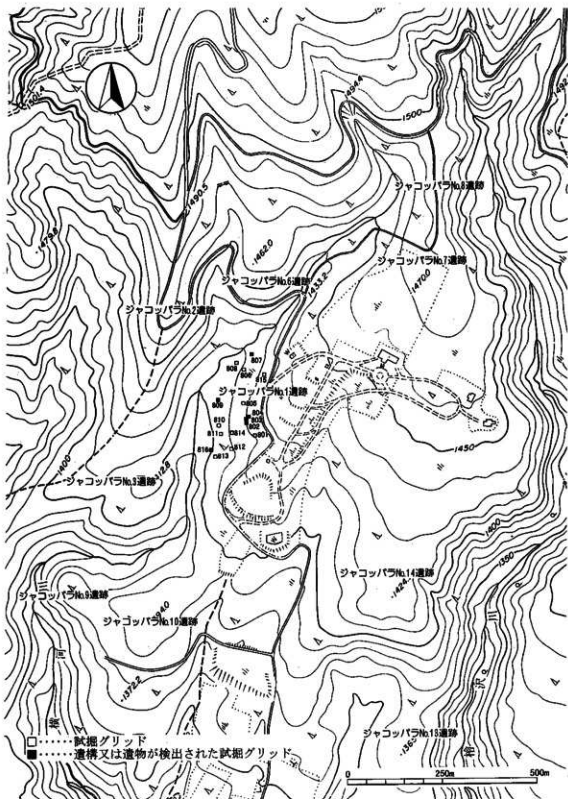
第25図24・25はKRC816グリッド出土の遺物である。

24はが址状遺構周辺よりまとまって出土した同一個体とみられる7点の破片資料をもとに、図上復原した縄文時代早期後半に属する条底土器である。出土した破片資料全点の接合は認められなかったが、資料観察によって破片部位を同定し、復原を行なった。正面観の一部に相当する部位しか破片資料が見受けられず、胴部下半相当の部位を欠く。器体上段には、屈曲の緩い二段のくびれが認められ、これにより二帯の段帯部が形成されている。胎土には繊維が多く含まれ、器内外面にはナデによる成形後、繊維束等による微弱な擦底調整が施される。二つの段帯部が主要な文様帯に相当するが、モチーフは口縁部に相当する上部の段帯部のみ描かれる。また、口縁部破片に突起物の存在を示す痕跡が認められたため、復原に際して、当該型式に特有の円筒状突起を想定している。口縁部付近では口唇直下と屈曲部直上に、それぞれ横位に連続する押引による刺突列が施されることによって文様帯が区分される。これに対して胴部半ばでは、屈曲のみで文様帯が区分され、この間に一条の刺突列が施されているのみである。口縁部付近の文様帯内には、指頭を用いた凹線とこれに沿って加えられた刺突列を描線とした文様が描かれているが、モチーフは判然としない。

これら断片的な資料から型式学的な特徴を導き出すのは難しいが、文様帯構成を踏まえた形態と文様要素と構成から判断して、関東方面の編年で示すところの、茅山下層式土器に比定されよう。ただし、この個体資料については、南関東～東海方面に分布する地域的な当該型式の特徴が認められ、かつ当該型式の範疇においても、より終末段階に近い特徴が観取される。すなわち、南関東～東海方面において、茅山下層式段階に後続する粕畑式の成立に承襲する特徴が認められるのである。具体的には静岡県元野遺跡、愛知県形原遺跡、同県八ツ崎遺跡、滋賀県磯山城遺跡などの粕畑式成立直前の資料群と、ほぼ同一段階の所産と考えられる。

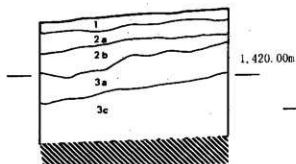
25は黒曜石製の石鎌の未製品である。剃片を素材としており、押圧剥離による調整加工が途中までしか認められない。基部に抉りが入っているものの、先端は未加工状態である。製作途中における欠損状況は認められず、このことから完成時にはかなり小型の石鎌として仕上がったことがうかがわれる。

第25図26はKRC807グリッド3a層から単独出土した後期旧石器時代のナイフ形石器である。縦長剃片を素材としており、表面にはほぼ平行する稜線がみられる。素材剃片の打点側を基部とし、左側縁全体と右側縁の下端に刃潰し加工を施すことにより、右側縁に刃部を設けている。全体の形状はほぼ左右対称の柳葉形を呈している。裏面基部付近には平坦剥離が施され、これによってバルブの大部分が取り除かれているが、打面の一部は残されている。なお、左側縁の刃潰し加工では、先端部のみ裏面からではなく、表面の稜線から調整剥離を施している。また、右側縁には先端からの掘突剥離が入っているが、彫刀面を作出する目的で入れられたものではなく、ナイフ形石器使用時に入った一種の剥離痕と考えられる。このような先端部の欠損状況は、刺突具としてのナイフ形石器の用途を暗示するものとして、その可能性を注意すべきであろう。

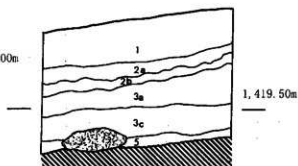


第 20 図 平成 8 年度分布予備調査試掘グリッド分布図 (3)

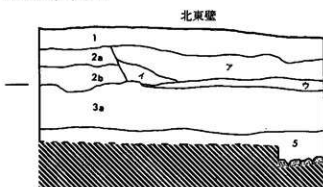
KRC801グリッド



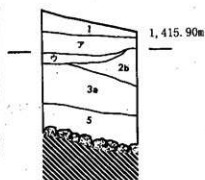
KRC802グリッド



KRC805グリッド

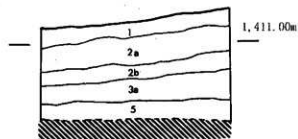


南東壁

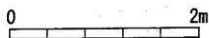
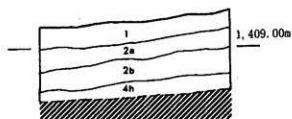


ア-ウ 炭焼き遺積層土
 ア、2aと同じだが炭粉微塵入る
 イ、アより炭粉多く、ローム状含む
 ウ、炭多く含む、黒み増す

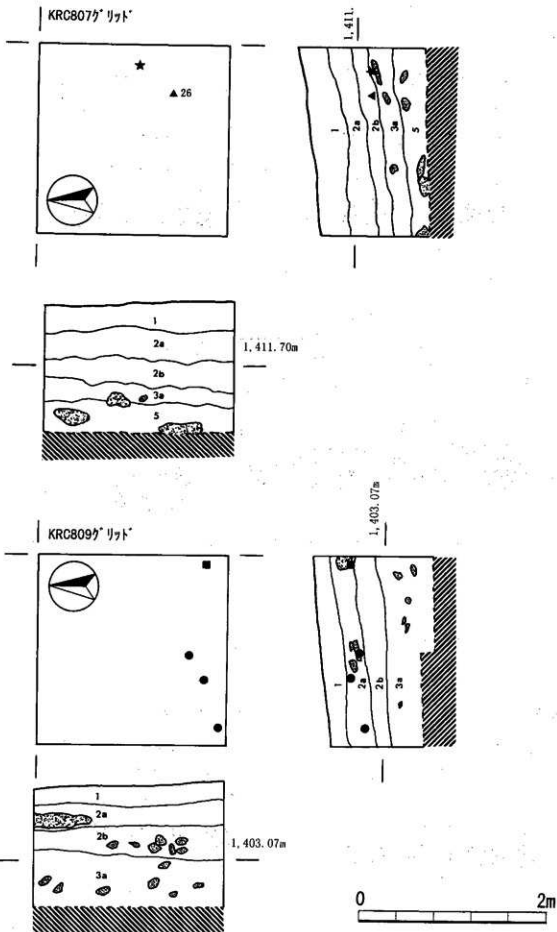
KRC806グリッド



KRC808グリッド

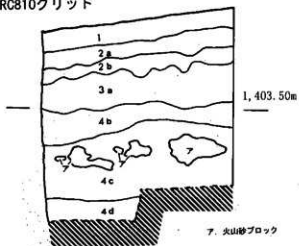


第21図 試掘グリッド土層断面図 (C地区その1) S=1/40

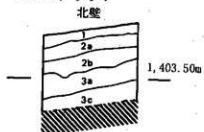


第 22 図 試掘グリッド土層断面図 (C地区その2) S=1/40

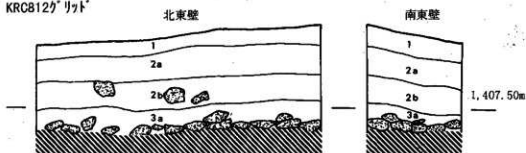
KRC810グリッド



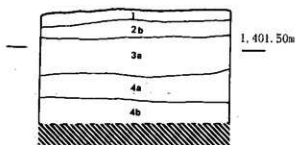
KRC811グリッド



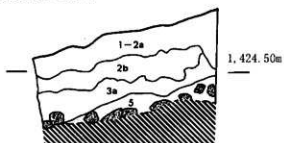
KRC812グリッド



KRC813グリッド

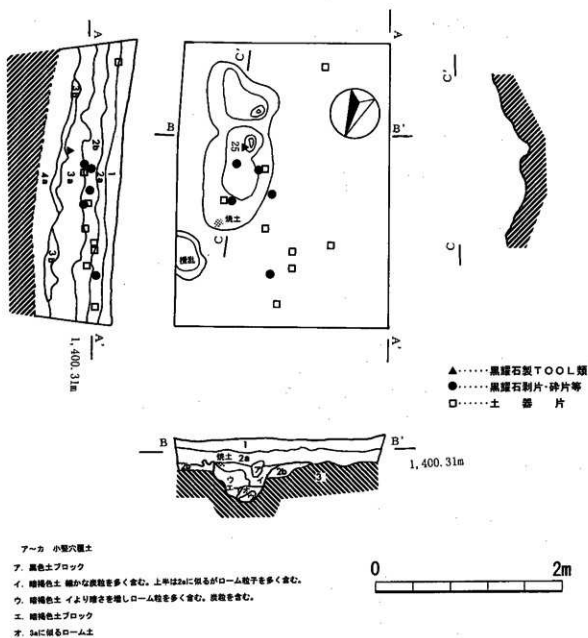


KRC815グリッド



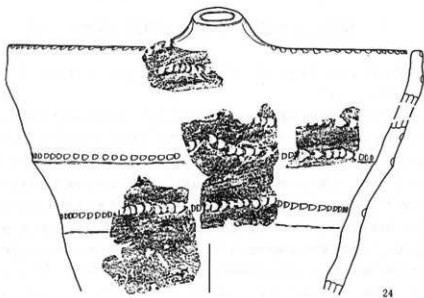
第23図 試掘グリッド土層断面図 (C地区その3) S=1/40

KRC816グリッド

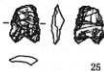


第24図 試掘グリッド土層断面図 (C地区その4) S=1/40

KRC8167* リット

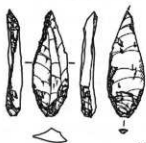


24



25

KRC8077* リット



26



第 25 図 C地区出土遺物 24……S=1/2, 25-26……S=2/3

IV 本年度調査のまとめ

1. 検出された遺構・遺物及び遺跡立地について

本年度の調査対象地区は、KRA地区の尾根筋・KRB地区東半部およびKRC地区の現ジャコッバラNa1遺跡の範囲内であった。

KRA地区においては当初黒曜石剥片が表面採集されたことから、他の地区同様に尾根筋に沿った平坦部や鞍部付近での遺構・遺物検出が予想されたが、調査の結果、予想以上に土層堆積が安定しておらず、一部を除いてローム土・黒色土層はごく薄く残存していたのみで、試掘グリッドからは遺構・遺物は検出されなかった。ただし、A地区の尾根末端部や周辺の谷部については今回十分な調査ができなかったため状況が不明である。似たような土層堆積状況を示す地点、例えば平成6年度に調査が行われたKRD地区の尾根筋の一部(KRD231グリッド周辺の尾根頂部周辺及び南側尾根筋)においては土層の堆積状況が良好でない範囲では遺構・遺物とも検出されていないが、周辺のローム及び黒色土の堆積が比較的良好な地点で旧石器時代及び縄文時代の遺構・遺物が検出されている。地形上土層堆積が安定しない地点においては、もとより遺構・遺物が残るような形での利用がほとんど行われていないのか、それとも前述のような土層堆積状況のために遺構・遺物が尾根上に残存しなかったのか、不明な部分が多い。今後さらにこの地域内における土地利用のあり方としての検討が必要かもしれない。また、本区における縄文時代の土地利用については、尾根頂部から北西側に下りた谷部に存在する細久保遺跡との関係なども考慮する必要がありそうである。

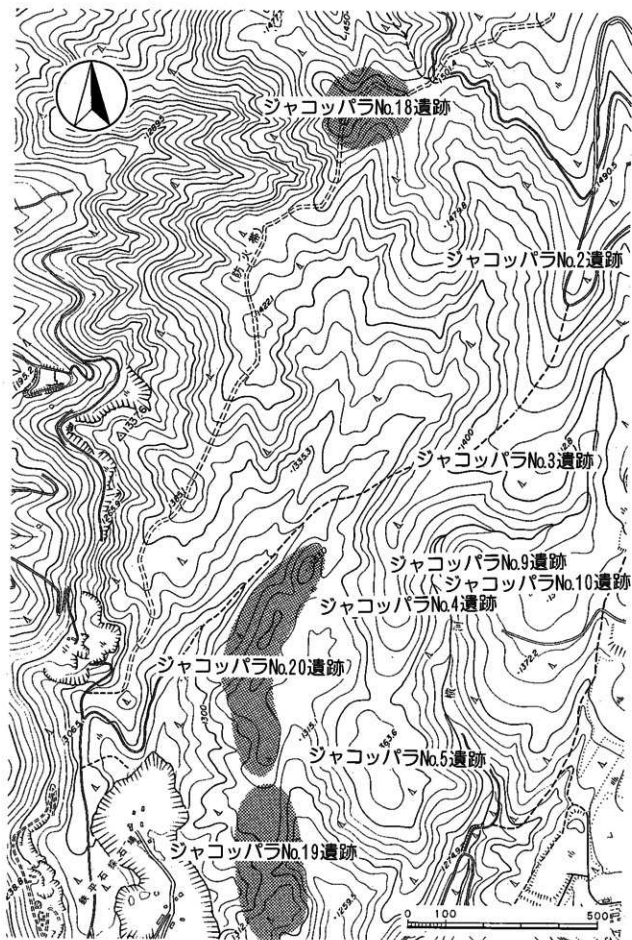
KRB地区の本年度調査区は、ジャコッバラNa4・Na5遺跡が位置する尾根とは湿原を隔てた対岸にあたる。ここは、南北に細長い独立丘状の地形を呈しており、この尾根筋に沿って旧石器時代及び縄文時代の遺構・遺物が点々と検出されている。これらの遺跡については、水場としての湿原や西側に流れる沢の存在のほかに、沢筋を下れば現茅野市米沢を経て八ヶ岳の山麓へ、沢とその東の尾根を一つ越えれば角間川沿いを下って諏訪湖東岸へと至ることができる地理的条件も考慮する必要がある。

KRC地区の本年度調査区域は、ジャコッバラNa1遺跡の中でも過去に黒曜石製の尖頭器はじめ旧石器時代の遺物が多く表面採集されている、市道西側の現在裸地となっている地点を含む。しかし、今回の地点周辺に設定した各グリッド(KRC801-804グリッド)からは、ローム質の表土中から数点の黒曜石剥片等が検出されたのみであり、該期の遺構を明確な形で捉えることはできなかった。あるいは表土の流出と共に遺物包含層が失われてしまった可能性もあるが、依然としてこの付近では遺物が表面採集されるため、今後とも注意が必要である。また、KRC807グリッドにおいては斜面上方からの流れ込みと思われるナイフ形石器が単独出土している。807グリッドの斜面上方に設定したKRC815グリッドからは遺物等は検出されていないが、昭和61年に宗教法人の研修道場建設に先立ち行われたジャコッバラNa1遺跡の試掘調査時には、尾根上のさらに南側の地点でナイフ形石器等が表面採集されており、あるいは尾根上のどこかに遺構が残存している可能性がある。

KRC816グリッドにおいては、沢に張り出したごく小規模の支尾根上で焼土を伴う小竪穴の周辺か

ら、縄文時代早期土器及び黒曜石製の石鏃未製品等が検出されている。このグリッドからは黒曜石のチップ等も検出されていることから、キャンプに伴うごく小規模な(一回性の)石器製作が行われた跡の可能性もある。本遺跡群で石鏃は、KRC 816グリッド・KRB 847グリッドのような小規模な「キャンプ地」様の遺跡から出土する場合と、KRC 852グリッド等のように他の遺物を伴わずに単独で出土する場合がある。後者についてはジャコッパラNa1遺跡の2区やジャコッパラNa8遺跡のように陥し穴状遺構の分布域から石鏃が検出される場合もあり、まさしく使用の結果そこへのこされた物であるといえる。それに対し前者は、「集落」内における石器製作をおぎなうような形での石器製作のあり方を示していることも考えられ、興味深い。

本年度調査では、63ヶ所設定した試掘グリッドのうち、16ヶ所において遺構・遺物の検出を見た。これらの地点の中で、すでに周知の埋蔵文化財包蔵地内であるジャコッパラNa1遺跡の範囲内を除いた地点、黒曜石剥片が表面採集されたKRA地区の尾根頂部付近をジャコッパラNa18遺跡、KRB地区の独立丘状尾根筋の南半部をジャコッパラNa19遺跡、北半部をNa20遺跡として新規に登録した(ただし遺跡の範囲については今後調査の進行等により変更される可能性がある)。



第26図 平成8年度新発見遺跡

主要参考文献

- | | | |
|----------|------|-----------|
| 諏訪市 | 1995 | 『諏訪市史 上巻』 |
| 諏訪市教育委員会 | 1983 | 『諏訪市の遺跡』 |
| 諏訪市教育委員会 | 1988 | 『ジャコッバラⅠ』 |
| 諏訪市教育委員会 | 1993 | 『ジャコッバラⅡ』 |
| 諏訪市教育委員会 | 1994 | 『ジャコッバラⅢ』 |
| 諏訪市教育委員会 | 1995 | 『ジャコッバラⅤ』 |
| 諏訪市教育委員会 | 1996 | 『ジャコッバラⅥ』 |

第 2 表 平成 8 年度調査グリッド一覧表

グリッド名	規 模	水系標高	備 考	土曜 サブリング
KRC801	2.0×2.0m	1,420.00m		
KRC802	2.0×2.6m	1,419.50m	黒曜石剥片 1	
KRC803	1.5×3.0m		黒曜石剥片 1	
KRC804	2.0×2.0m		黒曜石原石 1	
KRC805	1.0×3.0m	1,415.90m	炭焼き遺構	
KRC806	2.0×2.0m	1,411.00m		
KRC807	2.0×2.0m	1,411.70m	ナイフ形石器 1・黒曜石原石 1(ソフトローム中)	
KRC808	2.0×2.0m	1,409.00m		
KRC809	2.0×2.0m	1,403.07m	黒曜石石核 1・黒曜石剥片 1・黒曜石チップ 2(黒色土中)	
KRC810	2.0×2.0m	1,403.50m		
KRC811	1.0×3.0m	1,403.50m		
KRC812	1.0×3.0m	1,407.50m		
KRC813	2.0×2.0m	1,401.50m		
KRC814	1.0×3.0m			
KRC815	2.0×2.0m	1,424.50m		
KRC816	2.0×2.0m	1,400.31m	小竈穴 1・縄文土器片 8・黒曜石剥片 1・黒曜石チップ 4 ・石鏝 1・礎	
KRA817	2.0×2.0m	1,500.46m		○
KRA818	2.0×2.0m	1,497.56m		
KRA819	2.0×2.0m	1,496.22m		
KRA820	2.0×2.0m	1,492.43m		
KRA821	1.0×3.0m	1,500.46m		
KRA822	1.0×3.0m	1,496.46m		
KRA823	2.0×2.0m	1,487.12m		
KRA824	2.0×2.0m	1,493.51m		
KRA825	2.0×2.0m	1,487.27m		
KRA826	2.0×2.0m	1,487.42m		
KRA827	1.0×3.0m	1,484.92m		
KRB828	2.0×2.0m	1,306.80m	礎群・黒曜石剥片 4・原石 1・チャート剥片 2・台石? 1	○
KRB829	1.0×3.0m	1,302.00m	黒曜石剥片 1	
KRB830	2.0×2.0m	1,307.20m		
KRB831	2.0×2.0m	1,307.70m		○
KRB832	2.0×2.0m	1,307.70m		
KRB833	2.0×2.0m	1,303.50m		

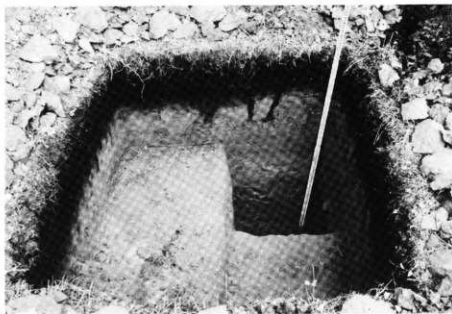
グリッド名	規 模	水系標高	備 考	土壌 サブソグ
KRB834	1.0×3.0m	1,303.70m		
KRB835	2.0×2.0m	1,306.00m	黒耀石石核 1・黒耀石剥片 3・両種石器類 1・礫	
KRB836	2.0×2.0m	1,304.50m		
KRB837	2.0×2.0m	1,298.00m	縄文土器片 3・黒耀石石核 1	
KRB838	1.0×3.0m	1,296.00m	縄文土器片 1	
KRB839	2.0×2.0m	1,306.00m		
KRB840	2.0×2.0m	1,314.50m		
KRB841	2.0×2.0m	1,313.50m		
KRB842	2.0×2.0m	1,317.50m		
KRB843	1.0×3.0m	1,308.50m		
KRB844	2.0×2.0m	1,329.00m		
KRB845	2.0×2.0m	1,334.00m	黒耀石剥片 2・黒耀石原石 1	○
KRB846	2.0×2.0m	1,331.50m		
KRB847	2.0×2.0m	1,330.00m	縄文土器片 16・黒耀石剥片 1・黒耀石チップ 2 黒耀石原石 1・石鏡 1・ハンマーストーン 1・他	
KRB848	2.0×2.0m	1,338.00m		
KRB849	2.0×2.0m	1,343.00m		
KRB850	2.0×2.0m	1,328.00m	風倒木痕	
KRB851	2.0×2.0m	1,347.00m	風倒木痕	
KRB852	2.0×2.0m	1,346.00m	石鏡 1	
KRB853	2.0×2.0m	1,348.00m		○
KRB854	2.0×2.0m	1,342.50m		
KRB855	1.0×3.0m	1,350.20m	風倒木痕あり、一部拡張	
KRB856	2.0×2.0m	1,344.50m		
KRB857	2.0×2.0m	1,344.50m		
KRB858	2.0×2.0m	1,340.00m	黒耀石原石 1	
KRB859	2.0×2.0m	1,345.00m	黒耀石剥片 1	
KRB860	1.0×3.0m	1,344.00m		
KRB861	2.0×2.0m	1,347.00m		
KRB862	1.0×3.0m	1,347.50m		
KRB863	2.0×2.0m	1,333.00m		

第3表 掲載遺物属性表

図	頁	No.	出土グランド	種別	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重さ(g)	備考
第17図	31	1	KRB828	剥片	9.5	4.0	1.3	56.0	黒耀石, 旧石器, 微細な剥離痕
第17図	31	2	KRB828	剥片	2.3	2.9	0.8	4.7	黒耀石, 旧石器, 折れ面有り
第17図	31	3	KRB828	剥片	3.1	2.4	6.5	4.4	黒耀石, 旧石器, 折れ面有り
第17図	31	4	KRB828	剥片	9.0	5.7	2.5	118.3	黒耀石, 旧石器, 微細な剥離痕
第18図	32	5	KRB828	原石	7.0	3.0	2.3	67.1	黒耀石, 旧石器
第18図	32	6	KRB828	剥片	4.1	2.3	0.6	4.1	チャート, 旧石器
第18図	32	7	KRB828	剥片	1.7	2.2	0.4	1.1	チャート, 旧石器
第18図	32	8	KRB837	縄文土器	-	-	-	-	押型文(山形文横位), 口縁
第18図	32	9	KRB837	縄文土器	-	-	-	-	縄文(RL単節), 胴部
第18図	32	10	KRB837	石核	5.2	3.4	2.1	40.9	黒耀石, 縄文時代?
第18図	32	11	KRB838	縄文土器	-	-	-	-	押型文(山形文縦位), 胴部
第18図	32	12	KRB852	石鏃	2.1	1.8	0.3	0.7	黒耀石, 縄文時代, 片脚一部欠
第19図	33	13	KRB847	縄文土器	-	-	-	-	押型文(山形文縦位), 胴部
第19図	33	14	KRB847	縄文土器	-	-	-	-	押型文(山形文縦位), 胴部
第19図	33	15	KRB847	縄文土器	-	-	-	-	押型文(山形文縦位), 胴部
第19図	33	16	KRB847	縄文土器	-	-	-	-	押型文(山形文縦位), 胴部
第19図	33	17	KRB847	縄文土器	-	-	-	-	押型文(山形文縦位), 胴部
第19図	33	18	KRB847	縄文土器	-	-	-	-	押型文(山形文横位), 胴部
第19図	33	19	KRB847	縄文土器	-	-	-	-	押型文(山形文横位), 胴部
第19図	33	20	KRB847	縄文土器	-	-	-	-	押型文(楕円文横位), 胴部
第19図	33	21	KRB847	縄文土器	-	-	-	-	押型文(楕円文), 胴部
第19図	33	22	KRB847	石鏃	2.3	(1.7)	5.0	1.0	黒耀石, 縄文時代, 鋭形鏃, 片脚欠
第19図	33	23	KRB847	ハマーストーン	4.4	2.4	1.8	27.4	砂岩, 縄文時代
第25図	41	24	KRC816	縄文土器	-	-	-	-	条痕文, 胴部上半へ口縁, 織維含む
第25図	41	25	KRC816	石鏃	1.7	1.4	0.6	1.0	黒耀石, 縄文時代, 未製品
第25図	41	26	KRC807	ナイフ形石器	5.3	1.7	0.7	4.6	黒耀石, 旧石器

報告書抄録

ふりがな	じゃこつぱら 8							
書名	ジャコッバラⅧ							
副書名	平成8年度長野県黒耀石原産地遺跡分布調査概報 (諏訪市ジャコッバラ遺跡群遺跡分布予備調査5)							
巻次								
シリーズ名	諏訪市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第38集							
編著者名	五味裕史・青木正洋・田中 総							
編集機関	諏訪市教育委員会							
所在地	〒392 長野県諏訪市高島 1-22-30 TEL0266 (52) 4141							
発行年月日	1997年 3月 21日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				m ²	
ジャコッバラ 遺跡群	諏訪市 大字四賀 霧ヶ峰	20,206	417 他	36° 03' 46"	138° 10' 00"	1996年 9月10日 ～ 1996年 11月28日	試掘坑 63か所	遺跡分布 予備調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
ジャコッバラ 遺跡群	キャンプ地跡	旧石器時代 縄文時代	旧石器時代 礫群 1 石器製作址等 縄文時代 小 竪 穴 石器製作址等	旧石器時代 ナイフ形石器 黒耀石製石器類 縄文時代 石鏃・黒耀石製石 器類・蔽石 早期土器片		新たに3ヶ所の遺 跡を発見 (ジャコッバラNo.18 ～No.20遺跡)		



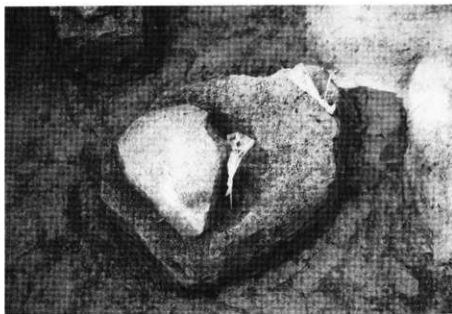
1. KRA 817 グリッド土層断面



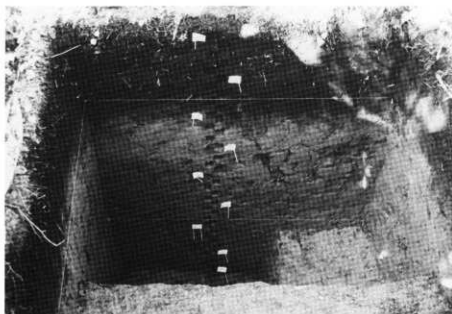
2. KRA 824 グリッド土層断面



3. KRB828グリッド遺物出土状況



4. KRB828グリッド遺物出土状況



5. KRB831グリッド土層断面と土壌サンプリング状況



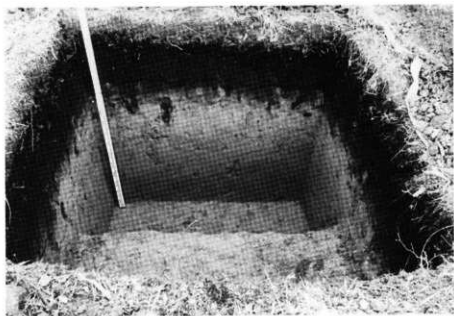
6. KRB835グリッド遺物出土状況



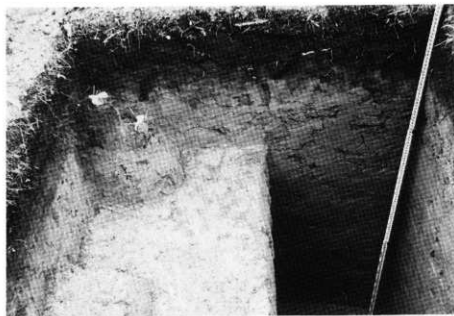
7. KRB837グリッド遺物出土状況



8. KRB838グリッド遺物出土状況



9. KRB841グリッド土層断面



10. KRB845グリッド遺物出土状況



11. KRB 847 グリッド遺物出土状況



12. KRB 850 グリッド風倒木底検出状況



13. KRB 850 グリッド土層断面 (北壁)



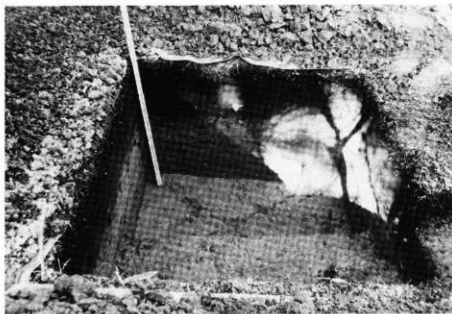
14. KRB 851 グリッド土層断面



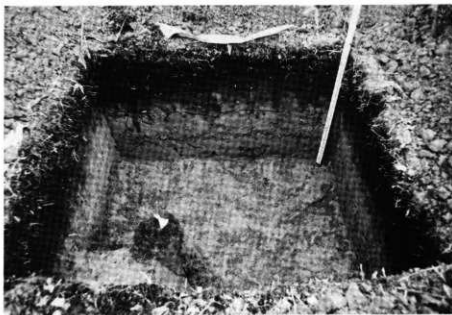
15. KRB 8 5 3 グリッド土層断面



16. KRB 8 5 5 グリッド風倒木根完掘状況



17. KRB857グリッド遺物出土状況



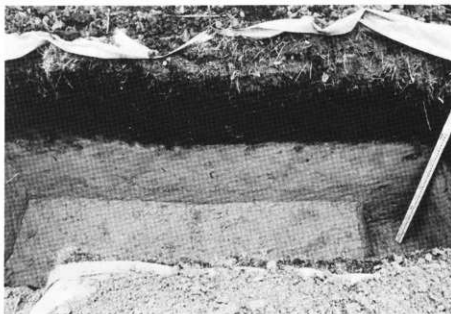
18. KRB859グリッド遺物出土状況



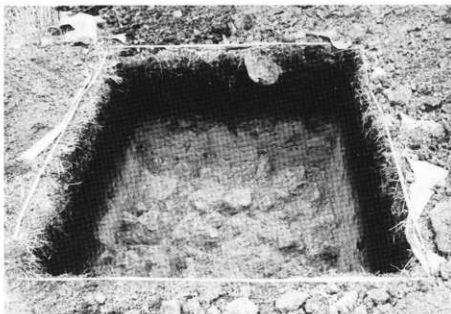
19. KRB861グリッド土層断面 (南壁)



20. KRB802グリッド土層断面



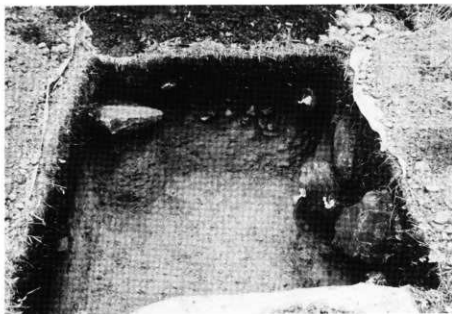
21. KRC805グリッド土層断面



22. KRC806グリッド土層断面



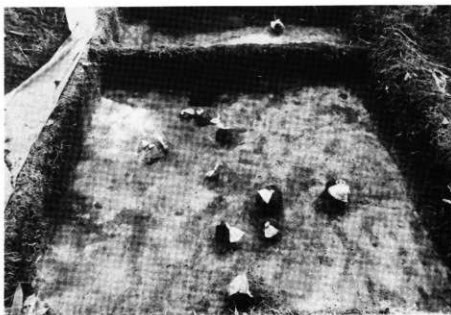
23. KRC 807 グリッド遺物出土状況



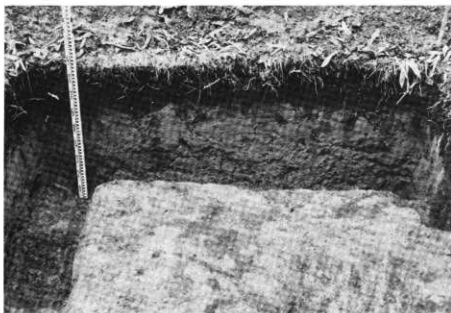
24. KRC 809 グリッド遺物出土状況



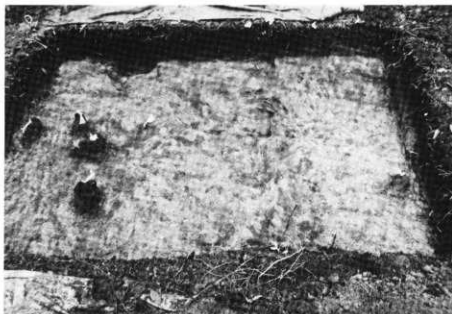
25. KRC 810 グリッド土層断面



26. KRC 816 グリッド遺物出土状況と小竪穴検出状況



27. KRC 816 グリッド土層断面



28. KRC 816 グリッド小竪穴完掘状況



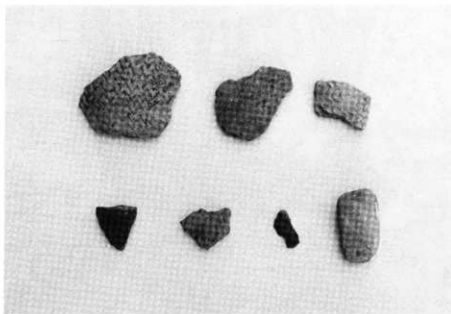
29. 作業状況 (KRA 817 グリッド)



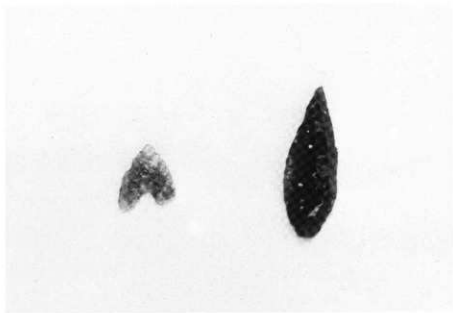
30. 作業状況 (KRB 840 グリッド埋め戻し)



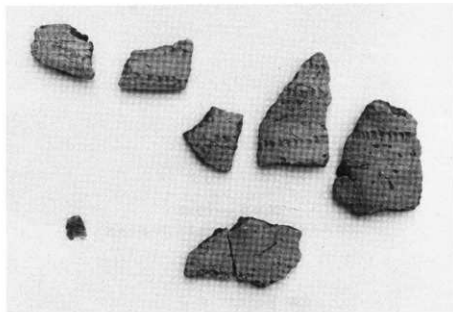
31. KRB 8 2 8 グリッド出土遺物



32. KRB 8 4 7 グリッド出土遺物



33. KRB852グリッド出土遺物(左) KRC807グリッド出土遺物(右)



34. KRC816グリッド出土遺物

ジャコッバラⅦ

—平成8年度長野県黒曜石原産地遺跡分布調査概報—

平成9年3月22日

編集 諏訪市高島1-22-30

発行 諏訪市教育委員会

印刷 (株)マルジョー上田印刷
